

同志社女子大学大学院 (2024年度在学生用)

課程修了要件 人材養成に関する目的等 カリキュラム

— 目次 —

課程修了要件	1
人材養成に関する目的等	4
カリキュラム	
文学研究科 英語英文学専攻	32
文学研究科 日本語日本文化専攻	34
文学研究科 情報文化専攻	36
国際社会システム研究科 国際社会システム専攻	37
薬学研究科 医療薬学専攻	38
看護学研究科 看護学専攻	39
生活科学研究科 生活デザイン専攻	42
生活科学研究科 食物栄養科学専攻	43
各研究科・専攻 問い合わせ先	45

* 本冊子に記載の内容は、2024 年度大学院履修要項から抜粋したものです。科目名、担当者、時間割、開講の有無等に変更になる場合があります。2025 年度については、各研究科・専攻へお問い合わせください（問い合わせ先は 45 ページを参照してください）。

課程修了要件

課程修了要件

課程修了要件

本大学院を修了するためには、所定の期間以上在学（学籍の頁参照）し、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。

ただし、在学期間に関しては、学則第11条の規定により短縮される場合があります。第11条を整理すると次のようになります。

いずれの場合も、短縮される理由とは「優れた研究業績を上げる」ことです。

【修士課程又は博士課程（前期）】

	修士課程・博士課程（前期）	参 照 条 項
標 準	2 年	第11条第1項前段
短縮される場合	1 年	第11条第1項ただし書き

【博士課程（前期＋後期）】

	博士課程（前期）	博士課程（後期）	計	参 照 条 項
標 準	2 年	3 年	5 年	第11条第3項前段
短縮される場合	2 年	1 年	3 年	第11条第3項ただし書き
	1 年	3 年	4 年	第11条第4項前段
	1 年	2 年	3 年	第11条第4項ただし書き

【修士課程又は博士課程（前期）を経ずに博士課程（後期）に入学した場合】

	博士課程（前期）	博士課程（後期）	計	参 照 条 項
標 準	—	3 年	3 年	第11条第5項前段
短縮される場合	—	1 年	1 年	第11条第5項ただし書き

課程修了に必要な単位数

文学研究科	英語英文学専攻	博士課程（前期）	30単位
		博士課程（後期）	10単位（2021年度以降入学生） 8単位（2020年度以前入学生）
	日本語日本文化専攻	博士課程（前期）	32単位
		博士課程（後期）	10単位（2021年度以降入学生） 8単位（2020年度以前入学生）
	情報文化専攻	修士課程	30単位
国際社会システム研究科	国際社会システム専攻	修士課程	32単位
薬学研究科	医療薬学専攻	博士課程	38単位
看護学研究科	看護学専攻	博士課程（前期）	30単位（看護学研究分野） 58単位（助産学実践分野）
		博士課程（後期）	11単位
生活科学研究科	生活デザイン専攻	修士課程	30単位
	食物栄養科学専攻	修士課程	30単位（2013年度以降入学生） 32単位（2012年度以前入学生）

学位論文の提出

- 論文指導教授は研究科委員会の議を経て決定されます。
- 学位論文を提出しようとする場合は、各研究科によって定められた期日までに、学位論文の研究課題を所定の様式により研究科長に提出し、承認を得なければなりません。
- 学位論文は、各研究科の定める要項に従い、学年暦に示された期日までに研究科長に提出しなければなりません。
- 所定の学費が未納の場合は、学位論文を提出することができません。

5. 休学中は、論文指導を受けることはできません。また、休学中に論文を提出することはできません。
6. 修士論文は、在学中に提出しなければなりません。修士論文の審査及び最終試験は、在学中に終了することになっています。
7. 博士論文は、単位修得満期退学後も提出できます。ただし、次の審査手数料が必要です。
 - ・博士課程（後期）に3年以上在学又は博士課程に4年以上在学し、所定の研究指導を受けた者で退学後3年未満の期間内に博士論文を提出する者…………… 25,000円
 - ・博士課程（後期）に3年以上在学又は博士課程に4年以上在学し、所定の研究指導を受けた者で退学後3年以上経過した後博士論文を提出する者…………… 50,000円
 - ・論文提出による者…………… 50,000円
 - ・博士課程（後期）在籍者及び在籍中に博士論文を提出し退学した者は審査料不要
8. 博士論文の審査は、論文を受理してから原則として1年以内に終了することになっています。

【標準修業年限経過後に博士論文審査を受ける場合の取扱いについて（2017年度以降入学者に適用）】

1. 標準修業年限を超えて在学し、論文審査を受ける場合で、審査期間が半年又は1年のときは、当該学期の学費は論文審査在学科（30,000円）のみとし、その他の学費は免除されます。
2. 標準修業年限を満たして退学した者が、課程修了による博士学位の申請を行う場合は、再入学して論文を提出しなければなりません。その場合、退学後3年未満である等一定の条件を満たした場合は、再入学金が免除となり、前項と同様の学費となります。
3. 標準修業年限を満たして退学した者が、再入学することなく論文を提出した場合は、いかなる場合も本学大学院学則第14条第2項を適用し、論文提出による博士学位の申請として取り扱います。
（審査手数料は2016年度以前入学者に準じます。）

学位論文未提出者の学費減免

修士課程、博士課程（前期）、博士課程（後期）及び博士課程（四年制）において、各課程修了に必要な単位を修得し、かつ、各課程の修業年限を超えて学位論文作成のために在学する場合の学費は、授業料の半額とします。

学位授与

本大学院において各研究科の課程修了の認定を得た者には、別に定める学位規則により次の学位が授与されます。

文学研究科	英語英文学専攻	博士課程(前期)……修士（英語英文学）
		博士課程(後期)……博士（英語英文学）
	日本語日本文化専攻	博士課程(前期)……修士（日本語日本文化）
		博士課程(後期)……博士（日本語日本文化）
	情報文化専攻	修士課程……………修士（情報文化）
		修士課程……………修士（国際社会システム）
国際社会システム研究科	国際社会システム専攻	修士課程……………修士（国際社会システム）
薬学研究科	医療薬学専攻	博士課程……………博士（薬学）
看護学研究科	看護学専攻	博士課程(前期)……修士（看護学）
		博士課程(後期)……博士（看護学）
生活科学研究科	生活デザイン専攻	修士課程……………修士（生活デザイン）
		修士課程……………修士（食物栄養科学）
	食物栄養科学専攻	修士課程……………修士（食物栄養科学）

学位を授与された者は、学位の名称を用いるときは、「博士（英語英文学・同志社女子大学）」又は「修士（食物栄養科学・同志社女子大学）」のように明記することを必要とします。

※博士の学位は、本学に博士論文を提出して、その審査に合格し、かつ本大学院の博士課程（後期）修了者と同等以上の学力があると認められた場合にも授与されます。（論文博士）

人材養成に関する目的等

人材養成に関する目的等

文学研究科

英語英文学専攻

博士課程（前期）

■人材養成目的

1. 教育・研究目的

広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことが博士課程（前期）の目的である。これに基づいて本専攻では、英語圏の文学・文化・言語・コミュニケーションの各分野をより細分化した形で深く学び、理解することを目的とする。また、グローバル化された世界において英語は共通言語としての役割をますます高めているが、コミュニケーション手段としてより高度の英語運用能力を獲得し、国際社会の発展に寄与することのできる人材の育成を目的とする。

2. 人材養成の指針

真の国際理解のためには、自国の文化と相手の文化に対する深い理解が必要不可欠である。そのためには幅広い知識の修得が必要であるが、それとともに視野の広い豊かな人間性を持つことが重要である。文学研究科英語英文学専攻博士課程（前期）は、本学の教育理念である良心教育を柱とするキリスト教主義、国際主義、リベラル・アーツ教育を体現する有能であり、かつ豊かな人間性を持つ英語教師あるいは英語を媒体に社会に貢献する人材の養成を目的とする。

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

文学研究科 英語英文学専攻 博士課程（前期）は、全学共通の学位授与の方針に基づき、知識・理解、関心・意欲・態度、表現・技能・能力に関して、次の基準に達している者に修士（英語英文学）の学位を授与する。

【知識・理解】

- ・英語圏の文学・文化・言語・コミュニケーションの各分野において、広範かつ深い知識を修得している。
- ・上記4分野における専門的なテーマについての研究活動を通して、研究テーマとその周辺領域の知識を高度なレベルで獲得している。
- ・博士課程（前期）修了後に、本専攻の学びで得た専門知識を備えた高度専門職業人又は教育者として活躍するために、その基盤となる豊かで幅広い学識を修得している。

【関心・意欲・態度】

- ・英語圏の文学・文化・言語・コミュニケーションの各分野における高度な専門的知識を活用しながら高度専門職業や生涯学習に取り組むことに関心がある。
- ・優れた思考力、分析力や高度の英語運用能力を活かし、専門知識や英語を媒体にして社会貢献したいという強い意欲がある。
- ・研究テーマに関する諸問題を、学問的立場から把握し高度な専門的知識を活用しながら解決しようとする強い意欲や態度を身に付けている。

【表現・技能・能力】

- ・英語圏の文学・文化・言語・コミュニケーションの各分野において、個別分野に対する理解を深め、対象に対する鋭い分析や批判を行うことができる。
- ・自らが得た成果を他者にわかりやすく説明・提示し、学術論文としてまとめあげるプレゼンテーション力や表現力がある。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

【体系性】

- ・英語圏の文学・文化・言語・コミュニケーションの各分野において、広範かつ深い知識を修得し、また「英語」教授法に関する分野を通して社会に寄与することのできる人材を育成するために、A類（演習科目）及びB類（講義科目）に区分された科目を設置し、カリキュラムを構築する。
- ・日本語日本文化専攻（博士課程（前期））、情報文化専攻・国際社会システム専攻・生活デザイン専攻（各修士課程）のB類科目を履修でき、かつ修了要件単位数に組み入れることができる。これにより、本専攻の教育課程ではカバーしきれない、さらに幅広い視野と関連分野の知識の修得を可能にする。

【教育内容】

- ・知識並びに理解力を養うため、授業科目（A類科目とB類科目）では、基礎から専門科目まで一貫して学ぶ中で、基礎的知見・文学批評理論・専門的知識並びに論理的思考を養い、英語圏の文学、文化、言語、コミュニケーションに関する多様性・複雑性への理解度を高める。さらに、こうした知識・理解力を確かなものとするため、研究指導を受け、多様なアカデミック・スキルズを修得した上で修士論文に取り組む。
- ・専門的職業人としての態度と意欲を身につけるため、授業科目（A類科目とB類科目）と研究指導を通じ、教育界、産業界、地域・国際社会において、指導的役割もしくはロールモデルとなっている専門的職業人との交流を促す。
- ・コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を獲得するため、授業科目（A類科目とB類科目）と研究指導を通じ、学生の個性を考慮した、きめ細やかな指導を実施する。さらに、セミナー・講演会など学外の方を交えた発表・交流の機会を設けるように努める。

【教育方法】

- ・授業科目（A類科目とB類科目）並びに研究指導における教育上の特長として、少人数教育によるきめ細やかな指導を行い、創造的な問題解決をしようとする意欲と態度を醸成する。
- ・初年次より各人に指導教員が付き、修士論文を見据えたきめ細やかな指導を行う。また、研究概要や進捗状況の公開の場での発表を義務付けることで研究精度を高め、高度な理論に基づく問題発見・調査・分析・解決のための能力を醸成する。
- ・研究指導教員は、授業科目担当教員と連携をとり、責任をもって、研究者倫理について学生が理解していることを確認し、質的調査・量的調査などの社会調査手法を身に付けさせる。

【学修成果の測定方法】

2024年度以降入学生に適用

- ・各授業については、授業への積極的関わり、授業内でのプレゼンテーション、課題の取り組み状況や最終レポート・試験を総合的に評価する。
- ・修士論文の審査は、次のように厳格かつ適正に行う。
 - ①修士論文の審査は、主査1名、副査1名による論文審査と口頭試問を実施する。
 - ②英語英文学専攻委員会、文学研究科委員会にて、学位論文審査基準に基づき、ディプロマ・ポリシーの各項目（知識・理解、関心・意欲・態度、表現・技能・能力）の総合的な達成度を評価する。

2023年度以前入学生に適用

- ・各授業については、授業への積極的関わり、授業内でのプレゼンテーション、課題の取り組み状況や最終レポート・試験を総合的に評価する。
- ・修士論文の審査は、次のように厳格かつ適正に行う。
 - ①主査1名、副査1名による論文審査と口頭試問。
 - ②英語英文学専攻委員会、文学研究科委員会、大学院委員会での審査。

博士課程（後期）

■人材養成目的

1. 教育・研究目的

専門分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するのに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことが博士課程（後期）の目的である。これに基づいて本専攻では博士課程（前期）よりも更に深く英米文学、英米文化、言語、コミュニケーションを修め、国際的分野においても活躍できる高い専門的能力と深い教養・豊かな人格を備えた社会人の育成を目的とする。

2. 人材養成の指針

文学研究科英語英文学専攻博士課程（後期）は、より豊かな発想と、深い知識と鋭い分析力とを持つだけでなく、本学の教育理念である良心教育を柱とするキリスト教主義、国際主義、リベラル・アーツ教育を体現する、各専門分野における研究者あるいは英語を媒体に社会に貢献する人材の養成を目的とする。

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

文学研究科 英語英文学専攻 博士課程（後期）は、全学共通の学位授与の方針に基づき、知識・理解、関心・意欲・態度、表現・技能・能力に関して、次の基準に達している者に博士（英語英文学）の学位を授与する。

【知識・理解】

- ・次世代に豊かな英米の文化遺産を継承するため、英米文学・英米文化・言語・コミュニケーションの各分野における広範かつ深い知識を修得している。
- ・上記4分野における専門的なテーマについての研究活動を通して、研究テーマとその周辺領域の知識を高度なレベルで獲得している。
- ・博士課程（後期）修了後に、本専攻の学びで得た高度な研究能力と専門知識を備えた研究者・教育者として活躍するために、その基盤となる豊かで幅広い学識を修得している。

【関心・意欲・態度】

- ・英米文学・英米文化・言語・コミュニケーションの各分野において、高度な専門的知識を活用しながら研究活動に取り組むことに関心がある。
- ・優れた思考力や分析力、高度の英語運用能力を活かし、専門知識や英語を媒体にして社会貢献したいという強い意欲がある。
- ・研究テーマに関する諸問題を、学問的立場から把握し、高度な専門的知識を活用しながら解決しようとする強い意欲や態度を身に付けている。

【表現・技能・能力】

- ・英米文学・英米文化・言語・コミュニケーションの各分野において、個別分野に対する理解を深め、対象に対する鋭い分析や批判を行うことができる。
- ・自らが得た成果を他者にわかりやすく説明・提示し、学術論文としてまとめあげるプレゼンテーション力や表現力がある。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

【体系性】

- ・英米文学・英米文化・言語・コミュニケーションの各分野において、広範かつ深い知識を修得し、また「英語」教授法に関する分野を通して社会に寄与することのできる人材を育成するために、各専門領域における「特別研究」及び「特別演習」を、指導教員了解のもとで履修させながら、学位取得に向けた論文指導を行う。
- ・指導教授の指示により、博士課程（前期）の科目を履修できる。これにより、本専攻の教育課程ではカバーしきれない、さらに幅広い視野と関連分野の知識の修得を可能にする。

【教育内容】

- ・「英文学特別研究Ⅰ」及び「英文学特別研究Ⅱ」，「米文学特別研究」においては、近代の英米の詩と小説の精読と解釈を土台にして、多様な文学批評理論を応用しながら、高度な分析能力を修得する。
- ・「英米文化特別研究」においては、英米を中心とする英語圏の文化を対象に、歴史、言語・コミュニケーション、経済等についての知見を基礎とする高度な文化分析能力を修得し、文学・音楽・映画などに表象される文化の型について理解することを目指す。
- ・「言語学特別研究Ⅰ」，「言語学特別研究Ⅱ」，「言語学特別研究Ⅲ」，「言語学特別研究Ⅳ」においては、翻訳法，コミュニケーション学，第二言語修得論，第二言語としての英語文法能力などの分野を通して、高度な分析・研究能力を修得する。
- ・「特別演習」においては、各専門領域の補完と関連分野の知識を修得する。

【教育方法】

- ・各専門領域における「特別研究」及び「特別演習」を、指導教員了解のもとで履修しながら、学位取得に向けた論文指導を受ける。
- ・研鑽の成果としての研究論文が、質の高いものであることを保証するために、外部の学会発表及び査読付き論文の公表を推奨する。

【学修成果の測定方法】

2024年度以降入学生に適用

- ・授業への積極的関わり，授業内でのプレゼンテーション，課題の取り組み状況や最終レポート・試験を総合的に評価する。
- ・博士論文の審査は、次のように厳格かつ適正に行う。
 - ①博士論文の審査は、主査1名，副査2名による論文審査と口頭試問を実施する。
 - ②英語英文学専攻委員会，文学研究科委員会にて、学位論文審査基準に基づき、ディプロマ・ポリシーの各項目（知識・理解，関心・意欲・態度，表現・技能・能力）の総合的な達成度を評価する。

2023年度以前入学生に適用

- ・授業への積極的関わり，授業内でのプレゼンテーション，課題の取り組み状況や最終レポート・試験を総合的に評価する。
- ・博士論文の審査は、次のように厳格かつ適正に行う。

- ①主査1名、副査2名による論文審査と口頭試問。
- ②英語英文学専攻委員会、文学研究科委員会、大学院委員会での審査。

日本語日本文化専攻

博士課程（前期）

■人材養成目的

1. 教育・研究目的

広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことが博士課程（前期）の目的である。これに基づいて本専攻では、日本文学・日本文化、日本語・日本語教育、音楽文化に関する知識や理論を、より高度なレベルで幅広く修得し、次世代に豊かな日本の文化遺産を継承することのできる人材を育成することを目的とする。また「日本語」の教授に関する知見と技術の教育を通じて国際社会に寄与していくことのできる人材を育成することを目的とする。

2. 人材養成の指針

文学研究科日本語日本文化専攻博士課程（前期）は、専門に関する知識や理論の修得のみに終らず、歴史学・宗教学・文化人類学などの他分野の知識や理論の修得にも努め、学際的な視点で日本文化に対する幅広い教養と視野を持つ人材を育成すること、また良心教育を柱とするキリスト教主義、国際主義、リベラル・アーツ教育を基本的理念とする本学の教育理念にのっとり、人間に対する深い洞察と国際的な広い視野を持つ人材の養成を目的とする。

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

文学研究科 日本語日本文化専攻 博士課程（前期）は、全学共通の学位授与の方針に基づき、知識・理解、関心・意欲・態度、表現・技能・能力に関して、次の基準に達している者に修士（日本語日本文化）の学位を授与する。

【知識・理解】

- ・次世代に豊かな日本の文化遺産を継承し、日本文学・日本文化、日本語・日本語教育、音楽文化の各分野における広範かつ深い知識を修得している。
- ・上記3分野における専門的なテーマについての研究活動を通して、研究テーマとその周辺領域の知識を高度なレベルで獲得している。
- ・博士課程（前期）修了後に、本専攻の学びで得た専門知識を備えた高度専門職業人又は教育者として活躍するために、その基盤となる豊かで幅広い学識を修得している。

【関心・意欲・態度】

- ・日本文学・日本文化、日本語・日本語教育、音楽文化の各分野において、高度な専門的知識を活用しながら高度専門職業や生涯学習に取り組むことに関心がある。
- ・優れた思考力や分析力、高度の日本語運用能力を活かし、専門知識や日本語を媒体にして社会貢献したいという強い意欲がある。
- ・研究テーマに関する諸問題を、学問的立場から把握し、高度な専門的知識を活用しながら解決しようとする強い意欲や態度がある。

【表現・技能・能力】

- ・日本文学・日本文化，日本語・日本語教育，音楽文化の各分野において，個別分野に対する理解を深め，対象に対する鋭い分析や批判を行うことができる。
- ・自らが得た成果を他者にわかりやすく説明・提示し，学術論文としてまとめあげるプレゼンテーション力や表現力がある。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

【体系性】

- ・日本文学・日本文化，日本語・日本語教育，音楽文化の各分野において，広範かつ深い知識を修得し，次世代に豊かな日本の文化遺産を継承することのできる人材を育成するために，また「日本語」の教授に関する知見と技術の教育を通して社会に寄与することのできる人材を育成するために，A類（演習科目）及びB類（講義科目）に区分された科目を設置し，カリキュラムを構築する。
- ・英語英文学専攻（博士課程（前期）），情報文化専攻・国際社会システム専攻・生活デザイン専攻（各修士課程）のB類科目を履修でき，かつ修了要件単位数に組み入れることができる。これにより，本専攻の教育課程ではカバーしきれない，さらに幅広い視野と関連分野の知識の修得を可能にする。

【教育内容】

- ・知識並びに理解力を養うため，授業科目（A類科目とB類科目）では，基礎から専門科目まで一貫して学ぶ中で，基礎的知見・方法論・専門的知識並びに論理的思考を養い，日本文学・日本文化，日本語・日本語教育，音楽文化に関する多様性・複雑性への理解度を高める。さらに，こうした知識・理解力を確かなものとするため，研究指導を受け修士論文に取り組む。
- ・専門的職業人としての態度と意欲を身に付けるため，授業科目（A類科目とB類科目）と研究指導を通じ，教育界，産業界，地域社会において，指導的役割を果たしたりロールモデルとなったりする，専門的職業人との交流を促す。
- ・コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を獲得するため，授業科目（A類科目とB類科目）と研究指導を通じ，学生の個性を考慮した，きめ細やかな指導を実施する。さらに，セミナー・講演会など学外の方を交えた発表・交流の機会を設けるように努める。

【教育方法】

- ・授業科目（A類科目とB類科目）並びに研究指導における教育上の特長として，少人数教育によるきめ細やかな指導を行い，創造的な問題解決をしようとする意欲と態度を醸成する。
- ・初年次より各人に指導教員が付き，修士論文を見据えたきめ細やかな指導を行う。また，研究概要や進捗状況発表を公開の場で義務付けることで研究精度を高め，高度な理論に基づく問題発見・調査・分析・解決のための能力を醸成する。
- ・研究指導教員は，授業科目担当教員と連携をとり，責任をもって，研究者倫理について学生が理解していることを確認し，質的調査・量的調査などの社会調査手法を身に付けさせる。

【学修成果の測定方法】

2024年度以降入学生に適用

- ・各授業については，授業への積極的関わり，授業内でのプレゼンテーション，課題の取り組み状況や最終レポート・試験を総合的に評価する。
- ・修士論文の審査は，次のように厳格かつ適正に行う。
 - ①修士論文の審査は，主査1名，副査1名による論文審査と口頭試問を実施する。
 - ②日本語日本文化専攻委員会，文学研究科委員会にて，学位論文審査基準に基づき，ディプロマ・ポリシーの各項目（知識・理解，関心・意欲・態度，表現・技能・能力）の総合的な達成度を評価する。

2023年度以前入学生に適用

- ・各授業については、授業への積極的関わり、授業内でのプレゼンテーション、課題の取り組み状況や最終レポート・試験を総合的に評価する。
- ・修士論文の審査は、次のように厳格かつ適正に行う。
 - ①主査1名、副査1名による論文審査と口頭試問。
 - ②日本語日本文化専攻委員会、文学研究科委員会、大学院委員会での審査。

博士課程（後期）

■人材養成目的

1. 教育・研究目的

専門分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するのに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことが博士課程（後期）の目的である。これに基づいて本専攻では、①博士課程（前期）よりも更に専門分野に関わる高度な研究能力と専門知識とを備えた研究者・教育者を養成すること、②日本語教育とその方法について研究開発できる能力を備えた研究者・教育者を養成すること、③国際的分野で活躍できる高い専門的能力と深い教養・豊かな人格を備えた社会人を育成することを目的とする。

2. 人材養成の指針

文学研究科日本語日本文化専攻博士課程（後期）は、本学の教育理念である良心教育を柱とするキリスト教主義、国際主義、リベラル・アーツ教育を生かした、バランスのとれた豊かな人間性を育て、各専門分野における学問を継承し深化させることのできる能力だけでなく、更に新しいパラダイムによる日本文化研究を切り開くことのできる人材の養成を目的とする。

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

文学研究科 日本語日本文化専攻 博士課程（後期）は、全学共通の学位授与の方針に基づき、知識・理解、関心・意欲・態度、表現・技能・能力に関して、次の基準に達している者に博士（日本語日本文化）の学位を授与する。

【知識・理解】

- ・次世代に豊かな日本の文化遺産を継承するため、日本文学・日本文化、日本語・日本語教育、音楽文化の各分野における広範かつ深い知識を修得している。
- ・上記3分野における専門的なテーマについての研究活動を通して、研究テーマとその周辺領域の知識を高度なレベルで獲得している。
- ・博士課程（後期）修了後に、本専攻の学びで得た高度な研究能力と専門知識を備えた研究者・教育者として活躍するために、その基盤となる豊かで幅広い学識を修得している。

【関心・意欲・態度】

- ・日本文学・日本文化、日本語・日本語教育、音楽文化の各分野において、高度な専門的知識を活用しながら研究活動に取り組むことに関心がある。
- ・優れた思考力や分析力、高度の日本語運用能力を活かし、専門知識や日本語を媒体にして社会貢献したいという強い意欲がある。
- ・研究テーマに関する諸問題を、学問的立場から把握し、高度な専門的知識を活用しながら解決しようとする強い意欲や

態度を身に付けている。

【表現・技能・能力】

- ・日本文学・日本文化，日本語・日本語教育，音楽文化の各分野において，個別分野に対する理解を深め，対象に対する鋭い分析や批判を行うことができる。
- ・自らが得た成果を他者にわかりやすく説明・提示し，学術論文としてまとめあげるプレゼンテーション力や表現力がある。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

【体系性】

- ・日本文学・日本文化，日本語・日本語教育，音楽文化の各分野において，広範かつ深い知識を修得し，次世代に豊かな日本の文化遺産を継承することのできる人材を育成するために，また「日本語」の教授に関する知見と技術の教育を通して社会に寄与することのできる人材を育成するために，各専門領域における特別研究及び特別演習を，指導教員了解のもとで履修させながら，学位取得に向けた論文指導を行う。
- ・指導教授の指示により，博士課程（前期）の科目を履修できる。これにより，本専攻の教育課程ではカバーしきれない，さらに幅広い視野と関連分野の知識の修得を可能にする。

【教育内容】

- ・「日本文学特別研究」においては，古典文学，近代文学を研究対象として，それらの作品分析を行う。特に物語本文をどのように読み，そこからどのように研究へ発展させるかということに関して，引用や特殊表現に注目し，また文学史的な展望のなかで問題を掘り下げ，それらの構造面と運用面を理論的かつ実証的に考察し，高度な分析・研究能力を修得する。
- ・「日本語特別研究」においては，古典語，現代日本語の語彙と文法を対象に，日本語の具体的な言語現象をとりあげ，それに相対する他言語の例も加えて，それらの構造面と運用面を理論的かつ実証的に考察し，高度な分析・研究能力を修得する。
- ・「日本文化史特別研究」においては，文学の周辺に位置する絵画や芸能を対象として作品研究を行う。絵画史，芸能史の中での位置づけはもとより文学との関係にも注目し，同時代および後世に与えた影響や伝播の過程にも目を配りつつ理論的かつ実証的に考察し，高度な分析・研究能力を修得する。
- ・「芸術文化特別研究」においては，音楽以外の芸術家や文化人に焦点を絞り，かれらが音楽をどのように観察しているかを，彼らの日記や小説，評論文章を読み解きながら，その背後から現れる文化の特性について理論的かつ実証的に考察し，高度な分析・研究能力を修得する。
- ・「特別演習」においては，各専門領域の補完と関連分野の知識を修得する。

【教育方法】

- ・各専門領域における「特別研究」及び「特別演習」を，指導教員了解のもとで履修しながら，学位取得に向けた論文指導を受ける。
- ・研鑽の成果としての研究論文が，質の高いものであることを保証するために，外部の学会発表及び査読付き論文の公表を推奨する。

【学修成果の測定方法】

2024年度以降入学生に適用

- ・授業への積極的関わり，授業内でのプレゼンテーション，課題の取り組み状況や最終レポート・試験を総合的に評価する。

・博士論文の審査は、次のように厳格かつ適正に行う。

①博士論文の審査は、主査1名、副査2名による論文審査と口頭試問を実施する。

②日本語日本文化専攻委員会、文学研究科委員会にて、学位論文審査基準に基づき、ディプロマ・ポリシーの各項目（知識・理解、関心・意欲・態度、表現・技能・能力）の総合的な達成度を評価する。

2023年度以前入学生に適用

・授業への積極的関わり、授業内でのプレゼンテーション、課題の取り組み状況や最終レポート・試験を総合的に評価する。

・博士論文の審査は、次のように厳格かつ適正に行う。

①主査1名、副査2名による論文審査と口頭試問。

②日本語日本文化専攻委員会、文学研究科委員会、大学院委員会での審査。

情報文化専攻

修士課程

■人材養成目的

1. 教育・研究目的

21世紀は「知識基盤社会」の時代であると言われる。このような時代を生きる人間の知的・文化的営為の探求には、従来の文化研究の枠組みを基にした新たな「情報文化」という視点が求められる。本専攻では、この現代的課題に「メディア文化」と「表現文化」という2つおりのアプローチを有機的に結合して挑む。「メディア文化」分野では、人間に根本的な影響を与えるメディア、すなわち言語、テキスト、マスメディア、インターネット、都市などを研究対象とし、その多様性を踏まえながら、知的・文化的問題としてのメディアを探究する。「表現文化」分野では、情報発信の方法を創作と分析批評などを通して追究する。更に、両分野に共通する基本的な知識としてメディアの理解、メディアによる表現、そしてその双方に共通する基盤である言語や認知に関連する知識、メディアの調査分析手法などを修得する。

2. 人材養成の指針

「メディア文化」分野と「表現文化」分野における研究を通じて、情報メディアに関わる高度な専門的知識を有するとともに、先端のメディアを駆使した表現力やプロデュース力を発揮することのできる専門的職業人を養成する。また、共通分野科目や他研究科・専攻科目の履修を通して幅広い視野と教養を獲得させ、グローバル化、絶え間ない技術革新、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断の重視、性別や年齢を問わない参画といった社会変化に対応できるようにする。具体的には、マスコミ関連分野、広告関連分野や一般企業における広報・宣伝部門を担う人材をはじめ、IT関連分野におけるシステム・エンジニア、プログラマー、またメディアを駆使したデザイナーやアーティストなどの芸術系分野、更に情報メディア系教育分野など、多様な分野で活躍することのできる人材の育成を行い、広く現代のメディア社会の発展に寄与することを目指す。

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

文学研究科 情報文化専攻 修士課程は、全学共通の学位授与の方針に基づき、知識・理解、関心・意欲・態度、表現・技能・能力に関して、次の基準に達している者に修士（情報文化）の学位を授与する。

【知識・理解】

・情報文化に関する高度な専門的知識と、幅広い視野に基づく多様な関連分野の知識を修得している。

- ・情報文化の観点から文化研究及び実践を行うための手法を理解している。

【関心・意欲・態度】

- ・グローバル化と絶え間ない技術革新が進む現代社会の中で起こりうる様々な事象に対し、常に分析的・批判的視野を持って生きていくことができる。
- ・社会の一員として、修得した高度な専門的知識及び技術を活かし、問題を主体的に発見し、かつ創造的に解決しようとする意欲と態度を身に付けている。

【表現・技能・能力】

- ・先端メディアを駆使した表現力，プロデュース力を中心とした情報文化に関わる専門的スキルを修得している。
- ・情報文化の観点から文化研究及び実践を行うための高度な理論に基づく問題発見・調査・分析・解決のための能力を修得している。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

【体系性】

- ・情報文化に関する高度な専門的知識や技能を修得するための演習形式授業を中心としつつ、関連分野の知識・技能修得のための講義形式授業を設置する。
- ・カリキュラムを「メディア文化」分野と「表現文化」分野に分けて選択制とし、各人の研究志向に沿った専門的履修を可能とする。
- ・履修が特定の研究分野のみに偏ることを避けると同時に、幅広い視野を獲得するために、選択した分野以外の科目の修得を必須とする。
- ・英語英文学専攻・日本語日本文化専攻（各博士課程（前期））、国際社会システム専攻・生活デザイン専攻（各修士課程）のB類科目を履修でき、かつ修了要件単位数に組み入れることができる。これにより、本専攻の教育課程ではカバーしきれない、さらに幅広い視野と関連分野の知識の修得を可能にする。

【教育内容】

- ・「メディア文化」分野科目においては、人間に根本的な影響を与えるメディア，すなわち言語，テキスト，マスメディア，インターネット，都市などを研究対象とし，その多様性を踏まえながら，知的・文化的問題としてのメディアを探究することで，グローバル化と絶え間ない技術革新が進む現代社会の中で起こりうる様々な事象に対する分析的・批判的視野と主体的な問題発見能力を醸成する。
- ・「表現文化」分野科目においては，自己表現や情報発信の方法を創作及び分析批評等の手法を通して探究することで，先端メディアを駆使した表現力，プロデュース力を中心とした情報文化に関わる専門的スキルを修得する。
- ・「共通」分野科目においては，情報文化研究において必要となる基礎的理論及び研究手法等を修得する。

【教育方法】

- ・授業全般にアクティブ・ラーニングの手法を取り入れ，創造的な問題解決をしようとする意欲と態度を醸成する。
- ・初年次より各人に指導教員が付き，修士論文を見据えたきめ細やかな指導を行う。また，半期ごとに研究概要や進捗状況発表を公開の場で義務付けることで研究精度を高め，高度な理論に基づく問題発見・調査・分析・解決のための能力を醸成する。
- ・最新情報機材を備えた演習室及び工作室を設置し，授業及び授業外学習に使用する。
- ・撮影，音響，展示，デザイン等の専門スタッフで組織されたメディアサポートセンターを設置し，授業及び授業外学習・制作等における技術サポートを行う。
- ・ゲスト講師によるワークショップ・講演会・展覧会などを随時実施し，多様な視点を持つきっかけとする。

【学修成果の測定方法】

2024年度以降入学生に適用

- ・講義形式の授業においては、試験及びレポートを中心としつつ、グループワーク・調査・制作・発表などの課題に対する評価も重視する。
- ・演習形式の授業においては、原則として、授業内で学び修得した力の集大成である最終課題の制作をもって評価する。
- ・修士論文の審査は、論文審査と口頭試問を実施し、情報文化専攻委員会、文学研究科委員会にて、学位論文審査基準に基づき、ディプロマ・ポリシーの各項目（知識・理解、関心・意欲・態度、表現・技能・能力）の総合的な達成度を評価する。

2023年度以前入学生に適用

- ・講義形式の授業においては、試験及びレポートを中心としつつ、グループワーク・調査・制作・発表などの課題に対する評価も重視する。
- ・演習形式の授業においては、原則として、授業内で学び修得した力の集大成である最終課題の制作をもって評価する。
- ・修士論文については、指導教員の他、口頭試問及び情報文化専攻教員で組織される委員会において評価する。

国際社会システム研究科

国際社会システム専攻

修士課程

■人材養成目的

1. 教育・研究目的

グローバル化が進展するこれからの日本社会にあって、国際社会に対する正しい知見に基づいた国際友好の進展は、不可避的条件である。国際社会の最大の目標である「共生」に至る道を探るために、「国際協力と国際交流」（文化・経済・環境政策面での国際協力と国際交流）「現代社会と文化」（各国・各地域の文化的多様性と社会の調和）「現代社会とこども」（教育的な面からの現代社会とこどもの関わり）という三分野を設定している。国際社会システム研究科は、国際的視点のもとに研究を進展させ、これら三分野にわたる総合的知見を身につけた研究を進展させることで、高度な職業的専門人を育成することを教育目的としている。

2. 人材養成の指針

国際社会と国際交流に関する知見、及び現代社会の諸領域についての宗教学的、社会学的、心理学的、教育学的知識を学ぶことにより、国際問題や現代社会に関わる問題についての理解力と解決力を身につけ、これらを生かして国際機関・NPO、教育・研究職のほか、多国籍企業、マスコミ・ジャーナリズム、自治体や企業の国際部門、初等教育又は中等教育の現場で活躍できる人材の養成に力をいれている。

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

国際社会システム研究科 国際社会システム専攻 修士課程は、全学共通の学位授与の方針に基づき、知識・理解、関心・意欲・態度、表現・技能・能力に関して、次の基準に達している者に修士（国際社会システム）の学位を授与する。

【知識・理解】

- ・「国際協力と国際交流」「現代社会と文化」「現代社会とこども」という3分野から、国際的課題や、現代社会を構成する多様な文化と課題、現代社会とこどもの発達・育成に関わる諸課題等に深い専門知識を修得している。
- ・国際問題・現代社会の諸課題やこどもの発達と育成に取り組む上で欠かせない、歴史・文化・政治・社会・教育・保育等に関する多様性・複雑性への理解度が十分である。

【関心・意欲・態度】

- ・本学の建学の精神である「国際主義」を体現するために、国際的・多文化共生的・人間発達の視座から21世紀の国際社会の諸課題に主体的に関わり、かつ指導的な役割を果たすことができる専門的職業人としての態度を身に付けている。

【表現・技能・能力】

- ・多様化・複雑化が進む国際社会において、他分野の専門家と協力して諸課題に取り組むために、社会調査のための諸技能、双方向的なコミュニケーション能力並びに豊かなプレゼンテーション能力を獲得している。
- ・専門的知識を修得し論理的思考を養うことを通し、国際問題や現代社会、人間発達に関する課題についての理解・解決を促す諸技能と能力を身に付けている。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

【体系性】

- ・国際社会と国際交流、現代社会と文化、現代社会とこどもに関する知見を広げ、歴史・文化・政治・社会・人間発達などの多様性・複雑性を理解するため、「国際協力と国際交流」「現代社会と文化」「現代社会とこども」の3分野にA類科目（選択必須）・B類科目（選択）を配当する。
- ・A類科目として「国際協力と国際交流」「現代社会と文化」「現代社会とこども」のそれぞれの分野に特殊演習を設ける。A類科目は、研究を行う上で不可欠な基礎的知見並びに方法論を修得することを目的としたもので、研究指導資格を有する教員が担当する。さらにB類科目として、より広範囲で、かつ専門的な知識を修得し論理的思考を養うため、各界専門家が担当する応用・各論科目を配置する。
- ・A類科目（選択必修）・B類科目（選択）は基本的には講義が中心であるが、少人数教育のもとで双方向性を重視して実施するので演習科目に準ずる科目と言える。
- ・英語英文学専攻・日本語日本文化専攻（各博士課程（前期））、情報文化専攻・生活デザイン専攻（各修士課程）のB類科目を履修でき、かつ修了要件単位に組み入れることができる。これにより、本専攻の教育課程ではカバーしきれない、さらに幅広い視野と関連分野の知識の修得を可能にする。

【教育内容】

- ・知識並びに理解力を養うため、授業科目（A類科目とB類科目）では、基礎から専門科目まで一貫して学ぶ中で、基礎的知見・方法論・専門的知識並びに論理的思考を養い、歴史・文化・政治・社会・教育・保育等に関する多様性・複雑性への理解度を高める。さらに、こうした知識・理解力を確かなものとするため、研究指導を受け修士論文に取り組む。
- ・専門的職業人としての態度と意欲を身に付けるため、授業科目（A類科目とB類科目）と研究指導を通し、地域社会・国際社会・産業界において、指導的役割を果たしたりロールモデルとなったりする、専門的職業人との交流を促す。
- ・コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を獲得するため、授業科目（A類科目とB類科目）と研究指導を通し、学生の個性を考慮した、きめ細やかな指導を実施する。さらに、セミナー・講演会など学外の方を交えた発表・交流の機会を設けるように努める。

【教育方法】

- ・授業科目（A 類科目と B 類科目）並びに研究指導における教育上の特長として、「理論と実践」の両面からの指導，少人数教育によるきめ細やかな指導を行う。
- ・「理論と実践の両面からの指導」として，具体的にはケーススタディ，フィールド・ワーク並びにセミナー，ワークショップ等を行う。これらを通し，地域社会・国際社会・教育・保育界・産業界など社会全般における諸課題に向き合ったり，専門的職業人と交流したりすることで，知識・理解力だけでなく，社会的課題への関心を深め，解決に向け能動的に取り組むための意欲・態度を身に付けるように促す。
- ・少人数教育によるきめ細やかな指導により，個々の学生の個性を考慮した，双方向的な教育が推進され，さらに大学院教員が隔々まで目を配る中でフィールド・ワーク並びにワークショップなど発表・交流の機会を生かすことにより，コミュニケーション能力並びに豊かなプレゼンテーション能力を養うことができる。
- ・研究指導教員は，授業科目担当教員と連携をとり，責任をもって，研究者倫理について学生が理解していること確認し，質的調査・量的調査などの社会調査手法を身に付けさせる。
- ・大学院生と学部学生との交流を図るため，公開発表会やワークショップを実施する。

【学修成果の測定方法】

2024年度以降入学生に適用

- ・大学院生の学修成果の測定方法と評価規準については，試験，レポート，授業への参加・貢献度，セミナー・講演会への参加・出席などによって評価する。
- ・修士論文の審査は，研究指導教員（主査）並びに副査による論文審査と公開発表会を経て，最終試験として口頭試問を実施し，国際社会システム研究科委員会にて，学位論文審査基準に基づき，ディプロマ・ポリシーの各項目（知識・理解，関心・意欲・態度，表現・技能・能力）の総合的な達成度により評価する。

2023年度以前入学生に適用

- ・大学院生の学修成果の測定方法と評価規準については，試験，レポート，授業への参加・貢献度，セミナー・講演会への参加・出席などによって評価する。
- ・修士論文の評価にあたっては研究指導教員（主査）並びに副査による論文審査・口頭試問を経て，最終試験として，公開発表会を設け研究科教員全員により審議する。

薬学研究科

医療薬学専攻

博士課程

■人材養成目的

1. 教育・研究目的

大学院薬学研究科医療薬学専攻博士課程は，高度な薬学専門知識を総合的に身に付け，先端科学の基礎及び応用研究を通して，さまざまな薬学関連分野において自らが意欲的かつ創造性豊かに研究を遂行できる高度専門薬剤師，基礎薬学分野や医療薬学分野の研究者，及びそのような人材を育成する指導者の養成を目的とする。

2. 人材養成の指針

本研究科博士課程は，先端的な科学技術に基づく薬学体系と高度化した薬物治療に基づく医療体系をつなぐ医療薬学の研究の実践によって，大学，研究所，医療機関，民間企業や地方自治体において基礎薬学及び医療薬学の研究者・教育者

として、難治疾患の克服や医薬品の安全・適正使用などの社会的要請に応えるとともに、科学と医療の発展に寄与できる高度な専門性を有する人材の育成を目的とする。

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

薬学研究科 医療薬学専攻 博士課程は、全学共通の学位授与の方針に基づき、知識・理解、関心・意欲・態度、表現・技能・能力に関して、次の基準に達している者に博士（薬学）の学位を授与する。

【知識・理解】

- ・研究に関連する諸領域について広範かつ深い専門的知識を修得している。
- ・研究方法・実験手技に関する理論や原理を理解している。

【関心・意欲・態度】

- ・原著論文や総説を随時検索し、研究対象領域における最先端の研究状況を把握しようとする態度が身に付いている。
- ・最先端の研究状況に対応して、研究を計画し遂行しようとする態度が身に付いている。
- ・科学と医療の諸問題に対応しようとする意欲を有している。
- ・後輩学生の研究についての助言や指導にも積極的である。

【表現・技能・能力】

- ・自立的に研究を立案し遂行できる。
- ・専門的な実験手技を修得し、再現性が良く信頼性が高い研究を遂行できる。
- ・研究内容をわかりやすくプレゼンテーションし、多様な観点からディスカッションできる。
- ・審査制度のある国際的な英語学術雑誌に、筆頭著者として原著論文を公表できる。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

【体系性】

- ・基礎薬学と医療薬学を包括した総合的な学術としての薬学を体系的に修得し、薬学基礎研究や医療薬学の充実に貢献できる高度な専門性や優れた研究能力を有する高度専門的人材及びそれを指導する人材を育成するために、研究指導科目、講義科目、実習科目から構成されるカリキュラムを設置する。

【教育内容】

- ・基礎薬学及び医療薬学の広範な薬学領域において、必須となる基本的知識・技能の修得と、特定領域に関する高度な専門性の修得を両立させるためのカリキュラムにより、高度な専門性を有する薬学研究者や薬剤師、あるいは基礎・臨床薬学での指導者を育成する。

【教育方法】

- ・講義科目を、基礎薬学領域（A 群）、医療薬学領域（B 群）、実践的臨床薬学領域（C 群）の3群に分け、学生の求める専門性に応じて選択履修させるが、専門領域に重点を置きつつも、関連性のある領域の知識を身に付けさせ、過度な専門化に陥ることなく、情報発信能力及び豊かな人間性と倫理観を身に付けさせる。
- ・薬学の研究に必須な実験手技を修得するために、基礎薬学領域に関連した手技の修得を目的とした「基礎薬学総合実習」、医療薬学領域に関連した「医療薬学総合実習」、及び実践的臨床薬学領域に関連した「実践的薬剤処方解析実習 A」を配置して必修科目とすることにより、領域横断的な知識に技術的な裏付けをする。
- ・高度な臨床能力を修得するため、薬剤師免許を持つ学生を対象に関連病院の臨床現場における「実践的薬剤処方解析実

習B」を配置し、選択履修することにより高度な専門薬剤師のスキルを磨く。

- ・基礎的知識・技術の修得は低学年時に集中させ、その基盤の上に立ち、必修科目である1年次から4年次まで連続して設置する研究指導科目「薬学特別研究Ⅰ～Ⅳ」によって国際レベルの博士論文を完成させる。
- ・日々の研究活動の中で、その成果と意義を国の内外を問わず、学会発表等において議論し、新しい考え方を構築していくコミュニケーション能力、ディスカッション能力を涵養する。
- ・研究成果を査読付の国際的な学術雑誌にて発表することにより、グローバルな視点から医療と健康の諸問題に対応できる資質を涵養する。

【学修成果の測定方法】

2024年度以降入学生に適用

- ・査読付きの国際的な英語学術雑誌において、筆頭著者での受理または掲載論文が1報以上あること。
- ・受理または掲載論文をもとに、博士学位論文を作成していること。
- ・博士学位論文が、薬学研究科委員会において、学位論文審査基準に基づき、ディプロマ・ポリシー各項目の総合的な達成度の評価・審議を経て合格していること。
- ・専門的知識及び理解度の測定は、指導教員が課題レポートの記載内容や研究結果について種々ディスカッションすることにより行う。
- ・問題解決力の測定は、研究の立案内容や研究条件の設定状況を含めた研究の進展度を評価することにより行う。
- ・研究成果のプレゼンテーション能力や質疑応答能力、コミュニケーション能力及び専門的技術能力はルーブリック法による測定を行う。

2023年度以前入学生に適用

- ・査読付きの国際的な英語学術雑誌において、筆頭著者での受理または掲載論文が1報以上あること。
- ・受理または掲載された論文をもとに、博士学位論文を作成し、薬学研究科委員会での審議を経て合格していること。
- ・専門的知識及び理解度の測定は、指導教員が課題レポートの記載内容や研究結果について種々ディスカッションすることにより行う。
- ・問題解決力の測定は、研究の立案内容や研究条件の設定状況を含めた研究の進展度を評価することにより行う。
- ・研究成果のプレゼンテーション能力や質疑応答能力、コミュニケーション能力及び専門的技術能力はルーブリック法により測定する。

看護学研究科

看護学専攻

博士課程（前期）

■人材養成目的

1. 教育・研究目的

看護学研究科看護学専攻博士課程（前期）は、「看護学研究分野」と「助産学実践分野」を軸に、リサーチマインドを有し臨床における判断力や指導力、専門的知識と技術の向上・開発を目指す看護職者や、より精深な学識と研究能力を修得し教育研究者を目指す看護職者、そして、時代の流れに沿った医療環境の大きな変化に対応できる高度な助産学の知識・技術を有した助産師を育成することを目的とする。

2. 人材養成の指針

看護学研究科看護学専攻博士課程（前期）では、様々な健康レベルにある人々が、豊かで健やかな生活を送れる

ように、理論と実践に基づいた研究能力及びエビデンスとナラティブを統合できる看護実践能力を備え、看護現象を探究し、看護学の発展と健康・福祉の向上に寄与できる人材を養成する。すなわち、看護実践の場で生じている課題について、論理的・創造的思考に基づいた解決方法を探究することができ、看護実践や教育・研究活動に対して積極的に取り組み、継続的な自己研鑽ができる人材を理想に掲げている。

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

看護学研究科 看護学専攻 博士課程（前期）は、全学共通の学位授与の方針に基づき、知識・理解、関心・意欲・態度、表現・技能・能力に関して、次の基準に達している者に修士（看護学）の学位を授与する。

【知識・理解】

- ・専門領域における看護実践の発展に貢献できる広範かつ深い知識と理解力を修得している。

【関心・意欲・態度】

- ・看護学の発展と探究や健康・福祉の向上のために、主体的かつ継続的に課題解決に取り組む態度を有している。
- ・専門職としての高度な職業倫理を有し、看護実践能力を向上しようとする意欲を有している。

【表現・技能・能力】

- ・理論と実践を統合して看護現象を探究できる基礎的な研究能力を有している。
- ・エビデンスとナラティブを統合できる看護実践能力を有している。
- ・助産学実践分野を履修する学生は、助産師として、周産期医療での高度な実践能力を有している。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

【体系性】

- ・教育課程は、共通科目、専門科目、特別研究の科目群から編成される。共通科目は、専門科目の研究を深める上で基盤となる科目や看護学の発展の基礎となる科目群である。専門科目は、専門領域における知識・技術を習得する科目群、特別研究は、専門科目の履修で明確になった研究課題を、研究のプロセスを経て研究論文としてまとめる科目である。
- ・専門科目の看護学研究科目では、成人看護学、ウイメンズヘルス、高齢者・在宅看護学、公衆衛生看護学の専門領域ごとの特論と、看護学演習を設置し、専門領域における最新の知見や動向に関する理解を深める。これらの専門領域は、選択制とし、各自の研究志向にそった専門的履修を可能とする。履修が特定の研究分野のみに偏ることを避けると同時に、幅広い視野を獲得するために、選択した専門領域以外の科目の履修を必須とする。
- ・助産学実践科目は、基盤科目と発展科目から編成し、基盤科目は、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める科目、発展科目は、助産の応用・発展となる科目群である。さらに、周産期での高度な実践能力を修得するために、講義・演習・実習形式の授業を学習内容の順序性や系統性を考えて配置する。

【教育内容】

- ・共通科目では、看護学研究と実践に必要な基礎的理論および研究手法を修得するとともに、倫理観を高める。
- ・看護学研究科目では、各分野において看護現象を科学的かつ専門的な視点からエビデンスを活用し分析、理論を生成・検証できる能力および看護を受ける人々の病の体験を通したナラティブな視点から看護現象を分析し再構成・検証できる能力を醸成する。
- ・助産学実践科目の基盤科目においては、助産師の資格取得に要する助産学の基礎的な知識・技術を修得する。発展科目では、助産の応用・発展に必要な高度で創造的な実践力を修得する。
- ・特別研究では、専門分野の教員を中心に研究倫理に関する理解を深め、研究手法を修得させ、学問的成果を論理的にま

とめる能力を修得する。

【教育方法】

- ・初年次より各人に指導教員が付き、修士論文や課題研究論文を見据えたきめ細かな指導を行う。また、研究概要や進捗状況を公開して研究精度を高める。
- ・最新の医療機器を整備した実習室を設置し、助産学実践科目の授業および演習に使用する。
- ・助産学実践科目の臨地実習では、実習科目ごとに到達目標を設定し、段階的に学修を行う。

【学修成果の測定方法】

2024年度以降入学生に適用

- ・講義形式の授業においては、試験およびレポートを中心に評価する。
- ・演習形式の授業では、グループワークや調査結果のプレゼンテーションなどの課題に対する評価を重視する。
- ・修士論文や課題研究論文審査では、論文審査と口頭試問を実施し、看護学研究科委員会にて、学位論文審査基準に基づいて、ディプロマ・ポリシーの各項目（知識・理解、関心・意欲・態度、表現・技能・能力）の総合的な達成度を評価する。
- ・助産学実践科目の演習形式の授業においては、授業内で学び修得した力の集大成を助産 OSCE（客観的臨床能力試験）により評価する。実習科目においては、実習目標の到達度をもって評価する。

2023年度以前入学生に適用

- ・講義形式の授業においては、試験およびレポートを中心に評価する。
- ・演習形式の授業では、グループワークや調査結果のプレゼンテーションなどの課題に対する評価を重視する。
- ・修士論文や課題研究論文については、指導教員の他、口頭試問および看護学研究科教員で組織される研究科委員会において評価する。
- ・助産学実践科目の演習形式の授業においては、授業内で学び修得した力の集大成を助産 OSCE（客観的臨床能力試験）により評価する。実習科目においては、実習目標の到達度をもって評価する。

博士課程（後期）

■人材養成目的

1. 教育・研究目的

看護学研究科看護学専攻博士課程（後期）は、博士課程（前期）での教育・研究をさらに深化させ、看護学の研究者として自立した研究活動を行うのに必要な高度な研究力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを基本的な理念として、看護実践に活用可能な理論の構築や方法の開発を目指し、科学的な思考に基づいた高度な研究・教育・実践活動を推進することのできる女性を育成する。これらの人材を社会に輩出することで、看護学の発展と健康・福祉の向上に寄与することを目的とする。

2. 人材養成の指針

看護学研究科看護学専攻博士課程（後期）では、実践的で応用可能な看護学の理論の構築や方法を探究できる教育研究力を備え、指導的役割を担うことのできる人材として、教育研究、臨床や地域など多様なフィールドで活躍し、看護継続教育や学生の臨地実習に携わる看護職者、看護系大学教員等の次世代育成や看護学の発展に寄与できる女性を育成する。

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

看護学研究科看護学専攻博士課程（後期）においては、全学共通の学位授与の方針に基づき、知識・理解、関心・意欲・

態度、表現・技能・能力に関して、次の基準に達している者に博士（看護学）の学位を授与する。

【知識・理解】

- ・医療の高度化・複雑化，社会構造の変化や国際化などに伴う健康課題の多様化に対応した研究・教育の遂行に必要な広範かつ深い学識と理解力を修得している。

【関心・意欲・態度】

- ・看護学の発展と探究や健康・福祉の向上のために，自ら課題を発見し，主体的かつ継続的に課題解決に取り組む態度を有している。
- ・看護学の学識者としての倫理観を有し，独創的で高度な研究活動を持続する意思を有している。

【表現・技能・能力】

- ・広い視野と豊かな学識を基盤として，卓越性と独創性を発揮しうる看護学の研究力を有している。
- ・看護学の発展に寄与する研究を自立して推進する能力を有している。
- ・研究的手法を用いて，新たな看護方法やヘルスケアシステムを構築し，評価できる能力を有している。
- ・看護学の研究成果やその応用を社会に発信できる能力を有している。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

【体系性】

- ・教育課程は，共通科目，専門科目，特別研究の3つの科目群から編成される。共通科目は専門科目の研究を深める上で基盤となる科目や看護学の発展の基礎となる科目群である。専門科目は専門分野における知識を習得する科目群，特別研究は専門科目の履修で明確になった研究課題を，研究のプロセスを経て研究論文としてまとめる科目である。
- ・専門科目は，特講科目を配置し，専門領域における最新の知見や動向に関する理解を深める。これらの専門領域は選択制とし，各自の研究志向に沿った専門的履修を可能とする。各自の専攻する看護学の特講科目に加え，研究課題に関連性の高い看護学の特講科目をあわせて履修することで，研究の遂行に必要な広範かつ深い学識と理解力を修得する。

【教育内容】

- ・共通科目では，看護学の研究・教育・実践活動の推進に必要な理論開発および研究手法を修得するとともに，倫理観を高める。
- ・専門科目では，各分野において看護現象を科学的かつ専門的な視点からエビデンスを活用・分析し，理論を生成・検証できる能力を醸成する。
- ・特別研究では，自立して高度な研究活動を行うために，研究倫理に関する理解を深め，自律的な研究過程を通じ，幅広い視野と深い学識を基盤とした，国際的に通用する独創的で卓越した研究能力を養う。

【教育方法】

- ・初年次より各人に指導教員が付き，博士論文を見据えたきめ細かな指導を行う。また，研究概要や進捗状況を公開して研究精度を高める。

【学修成果の測定方法】

2024年度以降入学生に適用

- ・講義形式の授業においては，課題レポートおよび討議参加度等から到達目標の達成度を評価する。
- ・博士論文審査では，論文審査と口頭試問を実施し，看護学研究科委員会にて学位論文審査基準に基づき，ディプロマ・ポリシーの各項目（知識・理解，関心・意欲・態度，表現・技能・能力）の総合的な達成度を評価する。

2023年度以前入学生に適用

- ・講義形式の授業においては、課題レポートおよび討議参加度等から到達目標の達成度を評価する。
- ・博士論文については、主査1名と副査2名により構成する審査委員会が最終試験である口頭試問を行ったうえで評価する。

生活科学研究科

生活デザイン専攻

修士課程

2024年度以降入学生に適用

■人材養成目的

1. 教育・研究目的

生活デザイン専攻では、生活をデザインする能力を探究することを目標とし、人間をとりまくくらしの歴史や思考などの文化的側面に着目する「くらしの文化」分野と、多様化するくらしにおける機構や体系などの機能構造的側面に着目する「くらしの仕組」分野を設置している。本専攻は、両分野を統合することにより、くらしに関する様々な専門分野、及びこれらの境界領域に関する高度な専門知識と研究能力、デザイン能力及び実践能力を養成することを教育目的としている。本専攻の教育の特徴は、リベラル・アーツの精神に基づき、両分野の問題を多方面から考察・研究することにある。

2. 人材養成の指針

生活デザイン専攻は、修得した多岐にわたる高度な専門的知識と研究能力、デザイン能力や実践能力をもとに、「くらしのスペシャリスト」として多方面で活躍できる優れた人材の養成を目的とする。具体的には、くらしに係わる企業、行政機関や公益法人、教育機関などで活躍できる人材を養成する。また、家庭科の専修免許状も取得可能であり、中学・高校教員としても一層の活躍ができる。

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

生活科学研究科 生活デザイン専攻 修士課程は、全学共通の学位授与の方針に基づき、知識・理解、関心・意欲・態度、表現・技能・能力に関して、次の基準に達している者に修士（生活デザイン）の学位を授与する。

【知識・理解】

- ・学部で獲得した知識や理解を踏まえて、生活科学領域が学際的な広がりを持ちつつ相互に深く関連していることを理解したうえで、自ら設定した研究主題に関する専門的な知識を獲得している。
- ・本専攻2分野（くらしの文化、くらしの仕組）における学術的な内容全体を理解している。
- ・上記2分野における専門的主题に関する研究活動により、研究主題とその周辺領域の知識を高度な水準で修得している。

【関心・意欲・態度】

- ・「くらしの文化」と「くらしの仕組」に関する諸事象や諸問題を専門的観点から分析することに関心がある。
- ・「くらしの文化」と「くらしの仕組」に関する諸問題の解決に、高度な専門的知識を活用しながら取り組む強い意欲や態度を身に付けている。

【表現・技能・能力】

- ・「くらしの文化」と「くらしの仕組」に関する諸問題を、研究者の立場から指摘することができる。
- ・「くらしの文化」と「くらしの仕組」に関する諸問題を、研究者の立場からイメージし、その要因を客観的に考察できる。
- ・「くらしの文化」と「くらしの仕組」に関する諸問題の解決策を、研究者の立場から提言することができる。
- ・学術研究を計画・実践し、その成果を発表することができる。
- ・修士課程修了後に、「くらしのスペシャリスト」として本専攻の学びで得た知識を様々な形で発揮できる。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

人間生活学科での学びを発展させ、「くらしの文化」と「くらしの仕組」の2分野を設け、系統的な学びのカリキュラムを設けている。

【体系性】

- ・「くらしの文化」と「くらしの仕組」の2分野それぞれに演習科目と講義科目を配置している。
- ・2分野のいずれかに偏ることなく、両分野の演習や講義を修得することを課している。
- ・英語英文学専攻・日本語日本文化専攻（各博士課程（前期））、情報文化専攻・国際社会システム専攻（各修士課程）のB類科目を履修でき、かつ修了要件単位数に組み入れることができる。これにより、本専攻の教育課程ではカバーしきれない、さらに幅広い視野と関連分野の知識の修得を可能にする。

【教育内容】

- ・A類の演習科目では、各分野に個別学問分野に沿った特殊演習と発展演習を設け、くらしの文化、くらしの仕組に対する分析的・批判的視野と主体的な課題発見能力を醸成する。
- ・B類の講義科目では、各分野に個別学問分野に沿った講義を設け、くらしの文化、くらしの仕組に関わる専門的な理論と技能を修得する。
- ・「生活デザイン特別講義」では、くらしの文化、くらしの仕組に関わる専門的な理論と技能の社会实践から、個別学問の社会貢献への意欲を醸成する。
- ・修士論文を必修とし、研究指導教員が在学期間を通して研究主題に沿った継続的研究指導を行うとともに、「生活デザイン特別研究」で当該学生の論理的かつ客観的な研究態度を養う。また、1年次概要発表会、2年次中間発表会、及び修士論文発表会を実施し、修士論文の進展と最終的成果を生活デザイン専攻担当教員が確認することにより、当該学生が学際的視点をもって修士論文に取り組むことができる体制とする。

【教育方法】

- ・新入生オリエンテーション期間にコンプライアンス教育・研究倫理教育を実施する。
- ・学際的な性格の本専攻にあって、各学生の研究テーマによっては、文学研究科ならびに国際社会システム研究科設置科目からも修了単位として算入することを可能にしている。
- ・修士論文の作成過程において研究指導教員として主たる指導教員1名が配置されるが、研究計画に基づいて概要発表会と中間発表会を設定し、学生に対して各段階での適切な指導を本専攻全体で組織的に行うことで、幅広い指導を受けることが可能な体制をとっている。

【学修成果の測定方法】

- ・各授業については、授業への積極的関わり、授業内でのプレゼンテーション、課題の状況や最終レポート・試験を総合的に評価する。
- ・修士論文の審査では、主査1名、副査1名による論文審査と口頭試問を実施し、生活デザイン専攻委員会、生活科学研究科委員会にて、学位論文審査基準に基づき、ディプロマ・ポリシーの各項目（知識・理解、関心・意欲・態度、表

現・技能・能力)の総合的な達成度を評価する。

2023年度以前入学生に適用

■人材養成目的

1. 教育・研究目的

生活デザイン専攻には、生活全般を生活デザインとして見直すため、多様化する暮らしと、暮らしをとりまく環境のデザインを追求する「暮らしのデザイン分野」と、社会とともにあるところのあり方を、暮らしの中の人間関係の視点から追求する「こころのデザイン分野」が設置されている。本専攻は、両分野を統合することにより、衣・食・住を中心に、暮らしに係わる経済・児童・倫理・こころ・福祉・環境問題に関する高度な専門知識と研究能力、デザイン能力及び実践能力を養成することを教育目的としている。本専攻の教育の特徴は、リベラル・アーツの精神に基づき、両分野の問題を多方面から考察・研究することにある。

2. 人材養成の指針

生活デザイン専攻は、修得した多岐にわたる高度な専門的知識と研究能力、デザイン能力や実践能力をもとに、「暮らしのスペシャリスト」(「暮らしのデザイナー」、「こころのデザイナー」)として多方面で活躍できる優れた人材の養成を目的とする。具体的には、暮らしに係わる企業(住居やアパレルなど)、くらしや児童などに関する出版関係、国民生活センターや福祉団体などの行政機関や団体、大学・短大などの教育機関で活躍できる人材を養成する。また、家庭科の専修免許状も取得可能であり、中学・高校教員としても一層の活躍ができる。

■ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

生活科学研究科 生活デザイン専攻 修士課程は、全学共通の学位授与の方針に基づき、知識・理解、関心・意欲・態度、表現・技能・能力に関して、次の基準に達している者に修士(生活デザイン)の学位を授与する。

【知識・理解】

- ・学部で獲得した知識や理解を踏まえて、生活科学領域が学際的な広がりを持ちつつ相互に深く関連していることを理解したうえで、自ら設定した研究主題に関する専門的な知識を獲得している。
- ・本専攻2分野(暮らしのデザイン、こころのデザイン)における学術的な内容全体を理解している。
- ・上記2分野における専門的主题に関する研究活動により、研究主題とその周辺領域の知識を高度な水準で修得している。

【関心・意欲・態度】

- ・「暮らしのデザイン」と「こころのデザイン」に関する諸事象や諸問題及び解決策に、高度な専門的知識を活用しながら取り組むことに関心がある。
- ・「暮らしのデザイン」と「こころのデザイン」に関する諸事象や諸問題を学問的立場から把握し、高度な専門的知識を活用しながら解決に向かう強い意欲や態度を身に付けている。

【表現・技能・能力】

- ・「暮らしのデザイン」と「こころのデザイン」に関する諸問題を、研究者の立場から指摘することができる。
- ・「暮らしのデザイン」と「こころのデザイン」に関する諸問題を、研究者の立場からイメージし、その解決策の提言を創造できる。
- ・「暮らしのデザイン」と「こころのデザイン」に関する諸問題に対する解決策の提言を、研究者の立場から行うことができる。

- ・ 学術研究を計画・実践し、その成果を発表することができる。
- ・ 修士課程修了後に、「くらしのスペシャリスト」（「くらしのデザイナー」、 「こころのデザイナー」）として本専攻の学びで得た知識を様々な形で発揮できる。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

人間生活学科での学びを発展させ、「くらしのデザイン」と「こころのデザイン」の2分野を設け、系統的な学びのカリキュラムを設けている。

【体系性】

- ・ 「くらしのデザイン」と「こころのデザイン」の2分野それぞれに演習科目と講義科目を配置している。
- ・ 2分野のいずれかに偏ることなく、両分野の演習や講義を一定必ず修得することを課している。
- ・ 英語英文学専攻・日本語日本文化専攻（各博士課程（前期））、情報文化専攻・国際社会システム専攻（各修士課程）のB類科目を履修でき、かつ修了要件単位数に組み入れることができる。これにより、本専攻の教育課程ではカバーしきれない、さらに幅広い視野と関連分野の知識の修得を可能にする。

【教育内容】

- ・ A類の演習科目では、各分野に個別学問分野に沿った特殊演習と発展演習を設け、くらしのデザイン、こころのデザインに対する分析的・批判的視野と主体的な課題発見能力を醸成する。
- ・ B類の講義科目では、各分野に個別学問分野に沿った講義を設け、くらしのデザイン、こころのデザインに関わる専門的な理論と技能を修得する。
- ・ 修士論文を必修とし、在学期間を通して担当教員が当該院生の研究主題に沿った継続的研究指導を行う。1年次概要発表会、2年次中間発表会、及び修士論文発表会を実施し、修士論文の進展と最終的成果それぞれの確認を生活デザイン専攻担当教員の間で把握しながら、修士論文作成までの一貫した指導を行う。

【教育方法】

- ・ 新入生オリエンテーション期間にコンプライアンス教育・研究倫理教育を実施する。
- ・ 学際的な性格の本専攻にあって、各学生の研究テーマによっては、文学研究科ならびに国際社会システム研究科設置科目からも修了単位として算入することを可能にしている。
- ・ 修士論文の作成過程において研究指導教員として主たる指導教員1名が配置されるが、研究計画に基づいて概要発表会と中間発表会を設定し、学生に対して各段階での適切な指導を本専攻全体で組織的に行うことで、幅広い指導を受けることが可能な体制をとっている。

【学修成果の測定方法】

- ・ 各授業については、授業への積極的関わり、授業内でのプレゼンテーション、課題の状況や最終レポート・試験を総合的に評価する。
- ・ 修士論文の審査では、次のように厳格かつ適正に行う。①主査1名と副査1名による論文審査と口頭試問、②生活デザイン専攻委員会での審査、③生活科学研究科委員会での審査、④大学院委員会での審査。

食物栄養科学専攻

修士課程

■人材養成目的

1. 教育・研究目的

食物栄養科学専攻は、「食物栄養科学コース」と「実践栄養管理学コース」からなる。「食物栄養科学コース」では、「食」に関する実験や調査により研究活動を展開することで、研究能力はもとより「食」についての高度な専門知識を兼ね備えた研究者や専門的職業人を養うことを教育目的としている。一方、「実践栄養管理学コース」では、栄養管理を中心とした講義科目、医療・保健・福祉・学校教育などの施設での1年間のインターンシップ（管理栄養士としての職場を有する者にとっては、各人の職場における研究活動）、「実践栄養管理学研究」「実践栄養管理学特別研究」などを通じて、グローバル社会に対応できる、高度で実践的な管理栄養士の知識と技術を磨くことを教育目的としている。

2. 人材養成の指針

食物栄養科学専攻両コースにおける人材養成は、他大学院（博士後期課程）への進学希望者に対する指導を含めながらも、主として修士課程修了をくぎりとしている。

「食物栄養科学コース」を修了した学生は、研究能力や「食」についての高度な専門知識が要求される大学・短大の教員や企業の研究者として活躍できるよう養成する。このコースでは家庭科の専修免許状も取得可能であり、中学校・高等学校教員としても一層の活躍ができる。

また、「実践栄養管理学コース」を修了した学生は、医療・保健・福祉・学校教育などの実践現場において、他の専門職と連携し、高度な栄養管理を遂行できる管理栄養士として活躍できるよう養成する。特に、本コースの前身である「臨床栄養学コース」は日本でも先駆けて2001年に食物栄養科学専攻に設けられたコースであり、本学生活科学部卒業生のみならず、現役管理栄養士のキャリアアップに寄与してきた。今後はさらに専門領域を広げ、高い能力を備えた管理栄養士を輩出することで、社会に貢献していく。

■ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

生活科学研究科 食物栄養科学専攻 修士課程は、全学共通の学位授与の方針に基づき、知識・理解、関心・意欲・態度、表現・技能・能力に関して、次の基準に達している者に修士（食物栄養科学）の学位を授与する。

食物栄養科学コース

【知識・理解】

- ・食品学・調理学・栄養学分野の学術的な内容全般を理解している。
- ・上記3分野における専門的なテーマについての研究活動を通して、研究テーマとその周辺領域の知識を高度なレベルで獲得している。
- ・博士課程への進学、教員や企業・医療・福祉などの高度専門職に対応できる準備ができている。

【関心・意欲・態度】

- ・食生活や食環境並びに食物を取り巻く課題に専門的な立場から関心を持ち、研究対象として捉えられる。
- ・課題を科学的に究明しようとする姿勢と、困難や妨げがあっても目標達成まで努力する強い意欲を持っている。
- ・得られたデータから客観的に結論を導き、社会に還元しようとする態度が備わっている。

【表現・技能・能力】

・食品学・調理学・栄養学分野の課題の解決に向けて、自ら研究を計画・実行することができる。

具体的には、研究者として必要な以下の諸能力が一定程度備わっている。

1. 研究の計画立案力
2. 研究計画を遂行する上で必要な実験・調査技能
3. 得られたデータを科学的に分析・検討し、客観的な結論を導く思考力や分析力
4. 自らが得た成果を他者にわかりやすく説明・提示し、学術論文としてまとめ上げるプレゼンテーション力や表現力

実践栄養管理学コース**【知識・理解】**

- ・栄養管理を中心とした栄養学の学びを深め、高度で実践的な栄養管理の知識を獲得している。
- ・医療・保健・福祉・学校教育などの実践現場におけるインターンシップや研究活動を通して、獲得した知識が統合され、より高度なスキルが構築されている。
- ・講義やインターンシップあるいは研究を通して、食と栄養が人々の生活の質に深く関わっていることを体感し、管理栄養士業務の重要性を理解している。

【関心・意欲・態度】

- ・医療・保健・福祉・学校教育などの実践現場において、対象となる人々の食と栄養に関して強い関心を抱き、課題の解決のために高度な知識や研究能力を活かすことができる。
- ・学習により得た知識や実務経験により得た技能を基本に、さらに広範な知識と高いレベルの技能を獲得する強い意欲を持っている。
- ・高度専門職業人として、人々の健康や幸福の実現に貢献すべく、高い職業倫理感をもって業務の質を向上させる態度や行動をとることができる。

【表現・技能・能力】

- ・研究発表や業務の向上を目指した提案などのプレゼンテーションにおいて、主旨・根拠・関連性を適切に表現することができる。
- ・医療・保健・福祉・学校教育などの実践現場において、必要なコミュニケーション力やリーダーシップ力を身に付け、適切に連携できる能力を持っている。
- ・医療・保健・福祉・学校教育などにおいて、栄養管理を遂行できる技能を獲得している。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）**食物栄養科学コース**

学部で身に付けた食品学・栄養学・調理学に関する知識を踏まえ、下記のカリキュラムを設けている。

【体系性】

- ・食品学、調理学、栄養学の3領域の講義科目を配している。
- ・研究指導科目として、「食物学特別研究」を設けている。
- ・「食物栄養科学演習」、「食物学特別講義」により上記カリキュラムを補完している。

【教育内容】

- ・3領域の講義科目及び「食物学特別講義」では、「食」に関する高度な専門知識を獲得させるとともに関連領域の知識を補完する。
- ・「食物栄養科学演習」では、英語研究論文の講読を通して、研究倫理に則った実験・調査などの研究手法を理解し、研究の発展的展開を考える力を身に付ける。
- ・「食物学特別研究」では、担当教員を中心に継続的に研究指導を行い、客観的かつ持続的な研究態度を養う。

【教育方法】

- ・3領域の講義科目及び「食物学特別講義」では、講義を中心とはするが、科目関連論文の読み合わせ、論文内容についてのディスカッションやプレゼンテーションなどを行う。
- ・「食物栄養科学演習」では、選んだ研究論文の内容を整理し、大学院任用教授全員の前でプレゼンテーションを行う。
- ・「食物学特別研究」では、担当教員の指導のもと、研究目的を定め、目的に合致した実験・調査などを研究倫理に則って遂行する。

【学修成果の測定方法】

2024年度以降入学生に適用

- ・3領域の講義科目及び「食物学特別講義」では、試験、受講態度、レポートなどにより総合的に判断する。
- ・「食物栄養科学演習」では、プレゼンテーションの内容、質問への受け答えを中心として、総合的に判断する。
- ・「食物学特別研究」では、学位論文審査基準に基づいた提出論文の審査ならびに大学院任用教授全員に対するプレゼンテーションと質疑応答によって、ディプロマ・ポリシーの各項目（知識・理解、関心・意欲・態度、表現・技能・能力）の総合的な達成度を評価する。

2023年度以前入学生に適用

- ・3領域の講義科目及び「食物学特別講義」では、試験、受講態度、レポートなどにより総合的に判断する。
- ・「食物栄養科学演習」では、プレゼンテーションの内容、質問への受け答えを中心として、総合的に判断する。
- ・「食物学特別研究」では、修了年にまとめた論文に基づき、大学院任用教授全員に対するプレゼンテーションと質疑応答を行うことでディプロマ・ポリシーに対する達成度を評価する。

実践栄養管理学コース

管理栄養士資格を有する者が、グローバル社会に対応できる高度で実践的な知識を獲得するために、下記のカリキュラムを設けている。

【体系性】

- ・栄養管理における重要なテーマを中心に科目を配しており、多職種の講師がそれぞれの視点から講義を行う。
- ・管理栄養士としての職場を有しない者には、実務研修（インターンシップ）である「医療実地研修」または「保健・福祉実地研修」と、修士論文を作成するための研究を行う「実践栄養管理学研究」「実践栄養管理学特別研究」を配している。
- ・管理栄養士としての職場を有している者には、職場において研究活動に基づいて修士論文を作成する「実践栄養管理学研究」「実践栄養管理学特別研究」を配している。

【教育内容】

- ・講義科目では、栄養管理を中心に、多職種の講師から具体的・実践的な内容の講義を受ける。
- ・「医療実地研修」または「保健・福祉実地研修」では、現場の管理栄養士実務の栄養教育や栄養管理等の項目ごとに到達

目標を設定し、1年間にわたる実務研修（インターンシップ）を実施する。

- ・管理栄養士の職場を有しない者については、「実践栄養管理学研究」及び「実践栄養管理学特別研究」において、インターンシップと並行して研究テーマもしくは研究の対象を設定し、研究を行う。在学期間を通して担当教員を中心に、協力施設の客員教授や実地教育講師などから継続的に研究指導を受ける。
- ・管理栄養士の職場を有する者については、「実践栄養管理学研究」及び「実践栄養管理学特別研究」において研究計画を立案し、当該職場の許可を得て研究を行う。在学期間を通して担当教員を中心に継続的に研究指導を受ける。

【教育方法】

- ・栄養管理を中心とした講義科目の多くは夜間に開講され、原則として複数の科目担当者（それぞれの分野の専門職）がリレー形式で実施する。少人数クラスでディスカッションを中心に、グローバル社会に対応できる高度な栄養管理に関する専門知識を獲得し、関連領域の知識も補完する。
- ・管理栄養士としての職場を有しない者は、「実践栄養管理学研究」において、担当教員から研究計画作成等の指導をうけながら、「医療実地研修」または「保健・福祉実地研修」において管理栄養士としての栄養管理等を中心としたインターンシップを本学指定の施設（施設内の客員教授や実地教育講師と本学の専任教授が指導する）にて行い、「実践栄養管理学特別研究」において、担当教員の指導のもと修士論文にまとめる。なお、修了年次中に修士論文中間発表を本専攻大学院任用教授の前で行い、進捗状況を確認する。
- ・管理栄養士としての職場を有する者は、「実践栄養管理学研究」において、担当教員から研究計画作成等の指導をうけ、勤務先で行う管理栄養士としての栄養管理等から得られた知見を「実践栄養管理学特別研究」において、担当教員の指導のもと、修士論文にまとめる。なお、修了年次中に修士論文中間発表を本専攻大学院任用教授の前で行い、進捗状況を確認する。

【学修成果の測定方法】

2024年度以降入学生に適用

- ・栄養管理を中心とした講義科目では、定期試験、受講態度、レポートなどで総合的に判断する。
- ・「医療実地研修」または「保健・福祉実地研修」では、インターンシップの実習態度、管理栄養士の実務の到達度などにより担当教員と施設の客員教授や実地教育講師が総合的に判断する。
- ・「実践栄養管理学特別研究」では、学位論文審査基準に基づいた提出論文の審査ならびに大学院任用教授全員に対するプレゼンテーションと質疑応答によって、ディプロマ・ポリシーの各項目（知識・理解、関心・意欲・態度、表現・技能・能力）の総合的な達成度を評価する。

2023年度入学生に適用

- ・栄養管理を中心とした講義科目では、定期試験、受講態度、レポートなどで総合的に判断する。
- ・「医療実地研修」または「保健・福祉実地研修」では、インターンシップの実習態度、管理栄養士の実務の到達度などにより担当教員と施設の客員教授や実地教育講師が総合的に判断する。
- ・「実践栄養管理学特別研究」では、修了年次に研究を論文にまとめさせ、大学院任用教授全員に対するプレゼンテーションと質疑応答でディプロマ・ポリシーに対する達成度を評価する。

カリキュラム

文学研究科 英語英文学専攻 授業科目表

博士課程（前期）（2021年度以降入学生に適用）

	科目群	授業コード	科 目 名	クラス	期間	単位	担当者	時間割	備 考
A 類	英米文学・文化 科目群	195760	イギリス詩作品研究 A	60	春2	2	(本年度欠講)		
		195860	イギリス詩作品研究 B	60	秋2	2	(本年度欠講)		
		396060	イギリスの女性小説 A	60	春2	2	(本年度欠講)		
		396160	イギリスの女性小説 B	60	秋2	2	(本年度欠講)		
		195960	イギリス文学作品研究 A	60	春2	2	風間末起子	月3	
		196060	イギリス文学作品研究 B	60	秋2	2	風間末起子	月3	
		396060	Culture of English-speaking countries A	60	春2	2	鈴木健司	火4	
		396160	Culture of English-speaking countries B	60	秋2	2	鈴木健司	火4	
	英語コミュニケーション・ 英語教育科目群	395760	Topics in Linguistics A	60	春2	2	今井由美子	金4	
		395860	Topics in Linguistics B	60	秋2	2	今井由美子	金4	
		196760	Principles of Communication A	60	春2	2	(本年度欠講)		
		196860	Principles of Communication B	60	秋2	2	(本年度欠講)		
		196960	第二言語習得論	60	春2	2	若本夏美	木4	
		197060	英語学習者論	60	秋2	2	若本夏美	木4	
		396260	心理言語学	60	春2	2	飯田 毅	木3	
		396360	バイリンガリズム論	60	秋2	2	飯田 毅	木3	
		396260	Colloquium (文学・文化)	60	春2	2	風間末起子, 鈴木健司, 福島祥一郎	火6	選択必修 2単位 以上
		396360	Colloquium (言語・コミュニケーション)	60	春2	2	飯田 毅, 若本夏美, 今井由美子	木5	
B 類	イギリス文学・ 文化科目群	197360	シェイクスピア劇とルネサンス	60	春2	2	辻 英子	水2	
		197460	シェイクスピア劇と現代	60	秋2	2	辻 英子	水2	
		395560	イギリスの民族と歴史	60	春2	2	潟山健一	月3	
		395660	イギリス文化と地域性	60	秋2	2	潟山健一	月3	
		廃止	イギリス文学とミルトン		春2	2			
		廃止	ミルトンとその時代		秋2	2			
		396960	イギリスの近現代文学 A	60	春2	2	木島菜菜子	月2	
		397069	イギリスの近現代文学 B	60	秋2	2	木島菜菜子	月2	
	アメリカ文学・ 文化科目群	198060	近代イギリス文化	60	秋2	2	(本年度欠講)		
		198160	アメリカ文学と地域性	60	春2	2	滝野哲郎	水2	
		198260	アメリカ文化と地域性	60	秋2	2	滝野哲郎	水2	
		198460	アメリカの映像文化	60	春2	2	鈴木健司	金2	
		198560	アメリカ文学批評	60	秋2	2	(本年度欠講)		
		198660	アメリカの文化と表象	60	春2	2	國友万裕	火2	
		198760	アメリカの歴史とジェンダー	60	秋2	2	國友万裕	火2	
	ヨーロッパ文学・ 文化科目群	198660	ギリシャ・ローマ古典文学	60	秋2	2	西塔由貴子	木3	
		198760	ヨーロッパの文学と文化	60	春2	2	(本年度欠講)		
		198860	ラテン語 I	60	春2	2	(本年度欠講)		
		198960	ラテン語 II	60	秋2	2	(本年度欠講)		
	英語学・英語教育 科目群	199060	英語音声学 A	60	春2	2	佐伯林規江	月5	
		199160	英語音声学 B	60	秋2	2	佐伯林規江	月5	
		199260	英語科教授法 A	60	春2	2	名部井敏代	木2	
		199360	英語科教授法 B	60	秋2	2	赤松信彦	月4	
		199460	応用言語学リサーチメソッド	60	春2	2	赤松信彦	月4	
		199560	英語評価論	60	秋2	2	清水裕子	金1	
		199660	メディアと英語教育	60	春2	2	崎 ミチ・アン	金3	
		199760	教材開発論	60	秋2	2	杉森直樹	金2	
	英語運用スキル 科目群	395160	Academic Writing A	60	春2	1	富澤理英子	木2	選択必修 2単位 以上
		395260	Academic Writing B	60	秋2	1	富澤理英子	木2	
		395360	Academic Writing C	60	春2	1	E.T.Ottman	金5	
		395460	Academic Writing D	60	秋2	1	E.T.Ottman	金5	

* A 類より10単位以上修得すること。(ただし、文学又は文化を論文のテーマにする者は、A 類の英米文学・文化科目群より8単位を、英語コミュニケーション又は英語教育を論文のテーマとする者は、A 類の英語コミュニケーション・英語教育科目群より8単位を必修とする。)

A 類・B 類を合わせて計30単位以上修得すること。

* B 類については、2 年次以降、指導教授の了解のもと、文学研究科日本語日本文化専攻博士課程（前期）、文学研究科情報文化専攻修士課程、国際社会システム研究科国際社会システム専攻修士課程及び生活科学研究科生活デザイン専攻修士課程の科目群 B 類の中から修得した単位を、8 単位までは博士課程（前期）修了に必要な単位として算入することができる。

ただし、B 類科目は自専攻生の履修登録がなければ開講されない。

* 文学又は文化を論文のテーマにする者は、「Colloquium (文学・文化)」が 1 年次春学期必修科目。英語コミュニケーション又は英語教育を論文のテーマにする者は、「Colloquium (言語・コミュニケーション)」が 1 年次春学期必修科目。

* 「Academic Writing A・B・C・D」はこの中から 2 単位選択必修。

* 廃止された科目の単位を修得済の場合、単位は有効。

博士課程（後期）（2021年度以降入学生に適用）

科目群	授業コード	科 目 名	クラス	期間	単位	担当者	時間割	履修方法	備 考
特別 研究	194260	英文学特別研究Ⅰ	60	通2	4	(本年度欠講)	月 2	左記科目より 4単位以上を 選択必修	
		英文学特別研究Ⅱ		通2	4	風間末起子			
	194360	米文学特別研究	60	通2	4	(本年度欠講)	木 4		
		英米文化特別研究		通2	4	(本年度欠講)			
		言語学特別研究Ⅰ		通2	4	飯田 毅			
		言語学特別研究Ⅱ		通2	4	(本年度欠講)			
	199860	言語学特別研究Ⅲ	60	通2	4	若本夏美	木 2		
		言語学特別研究Ⅳ		通2	4	(本年度欠講)			
特別 演習	396560	英文学特別演習	60	秋2	2	辻 英子	金 2		
	396660	米文学特別演習	60	秋2	2	福島祥一郎	木 4		
	396760	英米文化特別演習	60	春2	2	鈴木健司	金 1		
	396860	言語学特別演習	60	秋2	2	今井由美子	火 3		

*指導教授の指示により，上記「特別研究」4単位以上を含めて計10単位以上修得し，「論文指導」を受けること。

*指導教授の指示により，博士課程（前期）の科目を履修することができる。

文学研究科 日本語日本文化専攻 授業科目表

博士課程（前期）（2021年度以降入学生に適用）

	授業コード	科 目 名	クラス	期間	単位	担当者	時間割	履修方法	備考
A 類	日本文学・日本文化コース							左記科目より 16単位以上 選択必修 (ただし、 いずれかの コースから 最低8単位)	京田辺 京田辺 京田辺 京田辺 京田辺
	291660	日本文学特殊研究Ⅰ	60	通2	4	高橋幸平	火3		
	291760	日本文学特殊研究Ⅱ	60	通2	4	大津直子	木4		
	291860	日本文学特殊研究Ⅲ	60	通2	4	生井知子	金4		
	291060	日本文学特殊研究Ⅳ		通2	4	(本年度欠講)			
		日本文化史特殊研究Ⅰ	60	通2	4	宮腰直人	火1		
		日本文化史特殊研究Ⅱ		通2	4	(本年度欠講)			
		日本語・日本語教育コース							
	290360	日本語特殊研究Ⅰ	60	通2	4	大島中正	火4		
	290460	日本語特殊研究Ⅱ	60	通2	4	中井精一	木3		
		日本語特殊研究Ⅲ		通2	4	(本年度欠講)			
		日本語特殊研究Ⅳ		通2	4	(本年度欠講)			
	390460	日本語特殊研究Ⅴ	60	通2	4	森山由紀子	火2		
	290760	日本語教育特殊研究Ⅰ	60	通2	4	丸山敬介	金1		
音楽文化コース	291200	芸術文化特殊研究Ⅰ	00	通2	4	葛西聖憲	木5		
		芸術文化特殊研究Ⅱ		通2	4	(本年度欠講)			
		291400	芸術文化特殊研究Ⅲ	00	通2	4	筒井はる香	月2	
	291500	芸術文化特殊研究Ⅳ	00	通2	4	井上敏典	木1		
	298600	芸術文化特殊研究Ⅴ	00	通2	4	椎名亮輔	火3		
	B 類	390860	日本文化特論	60	通2	4	宮本明子	木4	
293160		民俗学特論	60	通2	4	浅野久枝	水2		
293260		考古学特論	60	通2	4	山田邦和	月4		
295960		日本語学特論Ⅰ	60	通2	4	大島中正	月2		
296060		日本語学特論Ⅱ	60	通2	4	中井精一	金2		
293660		日本語教育学特論Ⅰ	60	通2	4	山本由紀子	金4		
		日本語教育学特論Ⅱ		通2	4	(本年度欠講)			
296460		日本文学特論Ⅰ	60	通2	4	日高佳紀	金3		
296560		日本文学特論Ⅱ	60	通2	4	大津直子	木3		
		再現芸術論Ⅰ		通2	4	(本年度欠講)			
		再現芸術論Ⅱ		通2	4	(本年度欠講)			
297100		音楽理論特論Ⅰ	00	通2	4	成田和子	火5		
297200		音楽理論特論Ⅱ	00	通2	4	椎名亮輔	水1		
		音楽療法特論		通2	4	(本年度欠講)			

* 上記A類より16単位（ただし、いずれかのコースから最低8単位）以上、B類より12単位以上、計32単位以上修得しなければならない。ただし、B類に関しては以下のとおり。また、B類科目は自専攻生の履修登録がなければ開講されない。

2年次以降、指導教授の了解のもと、文学研究科英語英文学専攻博士課程（前期）、文学研究科情報文化専攻修士課程、国際社会システム研究科国際社会システム専攻修士課程及び生活科学研究科生活デザイン専攻修士課程の科目群B類の中から修得した単位を、8単位までは博士課程（前期）修了に必要な単位として算入することができる。

* 修士論文指導を受けるためには、1年以上在学し、所定の科目を16単位以上修得しなければならない。

* 2年目の履修登録に際しては、指導教授の指示を受けるものとする。

文学研究科 日本語日本文化専攻 授業科目表

博士課程（後期）（2021年度以降入学生に適用）

科目群	授業コード	科目名	クラス	期間	単位	担当者	時間割	履修方法	備考
特別研究	295060	日本語特別研究Ⅰ	60	通2	4	森山由紀子	火5	左記科目より 4単位以上を 選択必修	
	295160	日本語特別研究Ⅱ	60	通2	4	丸山敬介	水2		
	391760	日本語特別研究Ⅲ	60	通2	4	中井精一	火2		
	295260	日本文学特別研究Ⅰ	60	通2	4	生井知子	火2		
		日本文学特別研究Ⅱ		通2	4	（本年度欠講）			
		日本文学特別研究Ⅲ		通2	4	（本年度欠講）			
		日本文学特別研究Ⅳ		通2	4	（本年度欠講）			
		日本文化史特別研究		通2	4	（本年度欠講）			
		芸術文化特別研究Ⅰ		通2	4	（本年度欠講）			
	391200	芸術文化特別研究Ⅱ	00	通2	4	椎名亮輔	木1		京田辺
特別演習	391360	日本語特別演習	60	春2	2	大島中正	月3		京田辺
	391460	日本文学特別演習	60	秋2	2	高橋幸平	火4		
	391560	日本文化史特別演習	60	春2	2	宮腰直人	火3		
	391600	芸術文化特別演習	00	秋2	2	筒井はる香	月3		

*指導教授の指示により，上記「特別研究」4単位以上を含めて計10単位以上修得し，「論文指導」を受けること。

*指導教授の指示により，博士課程（前期）の科目を修得することができる。

文学研究科 情報文化専攻 授業科目表

修士課程（2013年度以降入学生に適用）

	授業コード	科 目 名	クラス	期間	単位	担当者	時間割	備考
A 類	(メディア文化分野)							
	590300	メディア文化特殊演習A		春2	2	(本年度欠講)		
		メディア文化特殊演習B		春2	2	(本年度欠講)		
		メディア文化特殊演習C	00	春2	2	中村信博	水 3	
		メディア文化特殊演習D	00	春2	2	関口英里	木 4	
		メディア文化特殊演習E	00	春2	2	影山貴彦	木 2	
	590700	メディア文化発展演習A		秋2	2	(本年度欠講)		
		メディア文化発展演習B		秋2	2	(本年度欠講)		
		メディア文化発展演習C	00	秋2	2	中村信博	水 3	
		メディア文化発展演習D	00	秋2	2	関口英里	木 4	
		メディア文化発展演習E	00	秋2	2	影山貴彦	木 2	
	(表現文化分野)							
	590900	表現文化特殊演習A	00	春2	2	高木穂子	木 2	
	591000	表現文化特殊演習B	00	春2	2	有賀妙子	水 2	
	591100	表現文化特殊演習C	00	春2	2	森 公一	金 3	
	591200	表現文化特殊演習D	00	春2	2	和氣早苗	火 1	
	593300	表現文化特殊演習E	00	春2	2	川田隆雄	木 3	
	591300	表現文化発展演習A	00	秋2	2	高木穂子	木 2	
	591400	表現文化発展演習B	00	秋2	2	有賀妙子	水 2	
	591500	表現文化発展演習C	00	秋2	2	森 公一	金 2	
	591600	表現文化発展演習D	00	秋2	2	和氣早苗	火 1	
	593400	表現文化発展演習E	00	秋2	2	川田隆雄	木 3	
B 類	(メディア文化分野)							
	591800	メディア・コミュニケーション特論		秋2	2	(本年度欠講)		
		メディア文化特論	00	春2	2	中村信博	月 2	
		マスコミュニケーション特論		春2	2	(本年度欠講)		
	593500	メディアリテラシー特論	00	秋2	2	小林直明	金 1	
	592100	大衆文化特論	00	春2	2	村木美紀	水 2	
	593800	超域文化特論	00	秋2	2	関口英里	金 4	
	(表現文化分野)							
	592200	コミュニケーションデザイン特論	00	秋2	2	高木穂子	火 3	
	592300	表象芸術特論	00	春2	2	森 公一	火 2	
	592400	芸術文化特論	00	春2	2	椎名亮輔	水 3	
	593600	メディアコンテンツ特論	00	秋2	2	村木美紀	火 4	
		集団制作特論		春2	2	(本年度欠講)		
	593900	ユーザインタフェース特論	00	秋2	2	和氣早苗	水 1	
	(共通分野)							
	592700	理論言語学特論	00	秋2	2	定延利之	火 2	
	593700	文字メディア特論	00	秋2	2	森山由紀子	水 2	
	592900	認知心理学特論	00	春2	2	藤村友美	月 3	
	593000	メディア研究法特論	00	春2	2	白井良成	木 3	

* A類に関しては、「メディア文化」又は「表現文化」のいずれかの分野で特殊演習は6単位以上、発展演習は6単位以上、残りの分野で特殊演習は2単位以上、発展演習は2単位以上修得しなければならない。

B類に関しては、A類で12単位以上修得している分野と同一の分野で4単位以上、それ以外の2分野（「共通分野」を含む）でそれぞれ2単位以上修得しなければならない。また、B類科目は自専攻生の履修登録がなければ開講されない。上記の要件を満たしつつ、合計30単位以上を修得しなければならない。

ただし、文学研究科英語英文学専攻修士課程（前期）、文学研究科日本語日本文化専攻修士課程（前期）、国際社会システム研究科国際社会システム専攻修士課程及び生活科学研究科生活デザイン専攻修士課程のB類科目の単位を6単位までは、修士課程修了に必要な単位に算入することができる。

国際社会システム研究科 国際社会システム専攻 授業科目表

修士課程（2018年度以降入学生に適用）

	授業コード	科 目 名	クラス	期間	単位	担当者	時間割	備考
A 類	(国際協力と国際交流)							
	496500	国際交流と社会システム特殊演習 A I	00	春2	2	大倉真人	火 3	
	496600	国際交流と社会システム特殊演習 A II	00	秋2	2	大倉真人	火 3	
	496700	国際交流と社会システム特殊演習 B I	00	春2	2	加藤 敦	金 4	
	496800	国際交流と社会システム特殊演習 B II	00	秋2	2	加藤 敦	金 4	
	496900	国際交流と社会システム特殊演習 C I	00	春2	2	長岡延孝	木 2	
	497000	国際交流と社会システム特殊演習 C II	00	秋2	2	長岡延孝	木 2	
	497100	国際交流と社会システム特殊演習 D I	00	春2	2	大西秀之	火 4	
	497200	国際交流と社会システム特殊演習 D II	00	秋2	2	大西秀之	水 2	
	(現代社会と文化)							
	491500	現代社会システム特殊演習 A I	00	春2	2	朱 捷	火 3	
	491600	現代社会システム特殊演習 A II	00	秋2	2	朱 捷	水 2	
	491700	現代社会システム特殊演習 B I	00	春2	2	倉持史朗	火 1	
	491800	現代社会システム特殊演習 B II	00	秋2	2	倉持史朗	火 1	
	491900	現代社会システム特殊演習 C I	00	春2	2	大津正和	火 1	
	492000	現代社会システム特殊演習 C II	00	秋2	2	大津正和	火 1	
	496300	現代社会システム特殊演習 D I	00	春2	2	日下菜穂子	木 1	
	496400	現代社会システム特殊演習 D II	00	秋2	2	日下菜穂子	木 1	
	497500	現代社会システム特殊演習 E I	00	春2	2	天野太郎	月 1	
	497600	現代社会システム特殊演習 E II	00	秋2	2	天野太郎	月 1	
	(現代社会とこども)							
	494500	社会とこども特殊演習 A I	00	春2	2	松崎正治	水 2	
	494600	社会とこども特殊演習 A II	00	秋2	2	松崎正治	水 2	
	494700	社会とこども特殊演習 B I	00	春2	2	塘利枝子	木 3	
	494800	社会とこども特殊演習 B II	00	秋2	2	塘利枝子	水 3	
	496100	社会とこども特殊演習 C I	00	春2	2	加賀裕郎	水 2	
	496200	社会とこども特殊演習 C II	00	秋2	2	加賀裕郎	水 1	
B 類	(国際協力と国際交流)							
	495300	国際関係特論 I	00	春2	2	鳥潟優子	月 2	
	495400	国際関係特論 II	00	秋2	2	鳥潟優子	月 2	
	492300	国際社会協力特論 I	00	春2	2	L. Rogers	木 4	
	492400	国際社会協力特論 II	00	秋2	2	L. Rogers	木 4	
	492700	国際観光文化特論 I	00	春2	2	天野太郎	水 1	
	492800	国際観光文化特論 II	00	秋2	2	天野太郎	水 1	
	497300	国際経済特論 I	00	春2	2	大倉真人	金 1	
	497400	国際経済特論 II	00	秋2	2	大倉真人	金 1	
	廃止	国際ビジネスコミュニケーション特論 I		春2	2			
	廃止	国際ビジネスコミュニケーション特論 II		秋2	2			
		国際情報システム特論 I		春2	2	(本年度欠講)		
		国際情報システム特論 II		秋2	2	(本年度欠講)		
		国際交流と社会システム特論 I		春2	2	(本年度欠講)		
		国際交流と社会システム特論 II		秋2	2	(本年度欠講)		
	(現代社会と文化)							
	495500	比較宗教学特論 I	00	春2	2	山下智子	火 5	
	495600	比較宗教学特論 II	00	秋2	2	山下智子	水 1	
		社会心理学特論		春2	2	(本年度欠講)		
	495800	社会調査・統計特論	00	春2	2	加藤 敦	木 1	
	497900	現代社会システム特論 I	00	春2	2	谷 直之	金 4	
	498000	現代社会システム特論 II	00	秋2	2	谷 直之	金 4	
	(現代社会とこども)							
	494900	こどもコミュニケーション特論 I	00	春2	2	竹井 史	火 4	
	495000	こどもコミュニケーション特論 II	00	秋2	2	竹井 史	木 1	
	498100	社会とこども特論 I	00	春2	2	笠間浩幸	木 2	
	498200	社会とこども特論 II	00	秋2	2	笠間浩幸	水 3	
	498300	こども福祉特論 I	00	春2	2	倉持史朗	月 1	
	498400	こども福祉特論 II	00	秋2	2	倉持史朗	月 1	

* A 類科目から12単位以上選択必修。A 類・B 類を合わせて合計32単位以上修得すること。ただし、B 類科目の履修については次のとおり。また、B 類科目は自専攻生の履修登録がなければ開講されない。

文学研究科英語英文学専攻博士課程（前期）、文学研究科日本語日本文化専攻博士課程（前期）、文学研究科情報文化専攻修士課程及び生活科学研究科生活デザイン専攻修士課程の B 類科目の単位を 8 単位まで含めることができる。

カリキュラム

科目区分	授業コード	科目名	クラス	期間	単位	担当者	時間割	履修方法	履修可能最低年次	備考
A 群 (基礎薬学領域)	790100	基礎薬学総合実習	00	春2	2	白井隆一, 川崎清史, 和田戈虹, 山本康友, 桑原淳	集中	必修	1	
	790200	生体分子機能学特論	00	春2	2	桑原 淳	木5	選択	1	
	790300	医薬品分子機能解析学特論	00	春2	2	白井隆一	金5	選択	1	
	790400	医薬品構造機能相関学特論	00	春2	2	山本康友	月5	選択	1	
	790500	微生物感染学特論	00	秋2	2	川崎清史	火5	選択	1	
	790600	分子病態生化学特論	00	秋2	2	和田戈虹	月5	選択	1	
B 群 (医療薬学領域)	790700	医療薬学総合実習	00	秋2	2	藤井健志, 前川京子, 松本健次郎, 尾崎恵一, 木津良一, 高橋玲	集中	必修	1	
	790800	薬効安全性学特論	00	秋2	2	松本健次郎	木5	選択	1	
	792500	がん分子標的治療学特論	00	秋2	2	尾崎恵一	金5	選択	1	
	790900	薬効評価学特論	00	秋2	2	藤井健志	木5	選択	2	
	791000	臨床治療薬効学特論	00	春2	2	高橋 玲	火5	選択	2	
	791100	レギュラトリーサイエンス特論	00	春2	2	前川京子	木5	選択	2	
	791200	生態環境毒性学特論	00	秋2	2	木津良一	金5	選択	2	
C 群 (実践の臨床薬学領域)	791300	実践の薬剤処方解析実習 A	00	春2	2	森田邦彦, 芝田信人, 松元加奈, 内田まよこ, 佐藤敦夫 (本年度欠講)	集中	必修	2	
		臨床病態解析学特論		春2	2			選択	2	
	791500	生物薬剤学特論	00	春2	2	芝田信人	月5	選択	2	
	791600	感染制御処方学特論	00	秋2	2	森田邦彦	月5	選択	2	
	廃止	癌疾患関連処方学特論		春2	2					
	791800	医薬品情報解析学特論	00	春2	2	松元加奈	金5	選択	2	
		実践の薬剤処方解析実習 B		秋2	2	(本年度欠講)		選択	2	
		治験・C R C 特論		秋2	2	(本年度欠講)		選択	2	
	792600	がん疾患関連処方学特論	00	春2	2	内田まよこ	火5	選択	2	
研究指導科目	7920XX	薬学特別研究Ⅰ	XX	通2	4	下記※参照	集中	必修	1	
	7921XX	薬学特別研究Ⅱ	XX	通2	4	下記※参照	集中	必修	2	
	7922XX	薬学特別研究Ⅲ	XX	通2	4	下記※参照	集中	必修	3	
	7923XX	薬学特別研究Ⅳ	XX	通2	4	下記※参照	集中	必修	4	

上記の要件を満たしつつ、合計38単位以上を修得しなければならない。

※研究指導科目の授業コードについて

(例) 「薬学特別研究Ⅰ」を、芝田 信人 先生で履修する場合

コード	担 当 者
01	尾崎 恵一
02	川崎 清史
03	木津 良一
04	森田 邦彦
05	芝田 信人
06	白井 隆一
07	高橋 玲
08	前川 京子
09	山本 康友
10	松本 健次郎
11	和田 戈虹
12	藤井 健志
14	松元 加奈
15	桑原 淳

博士課程（前期）【助産学実践分野】（2022年度以降入学生に適用）

科目区分	授業コード	科目名	クラス	期間	単位	担当者	時間割	履修方法	履修可能最低年次	備考
共通科目	890100	看護学研究特論	00	春2	2	小松光代, 眞鍋えみ子, 三橋美和, 木村静	木6	必修	1	
	890200	看護研究方法論	00	秋2	2	小松光代, 高城智圭, 木村洋子, 萩本明子, 山縣恵美	金5	必修	1	
	890400	理論看護特論	00	春2	2	當日雅代, 片山由加里, 小笠美春	金5	必修	1	
	890500	看護倫理特論	00	春2	2	當日雅代, 光木幸子, 杉原百合子	木5	必修	1	
	890300	科学英語論文クリティーク	00	春2	2	長谷川昇	木1		1	
	890600	看護教育特論	00	春2	2	岡山寧子, 南妙子, 葉山有香, 小笠幸子	木3	選択必修 4単位以上	1	
	890700	看護管理特論	00	秋2	2	南妙子, 中川典子	月5		1	
	890800	健康科学特論	00	春2	2	岡山寧子, 長谷川昇, 細井創	土3		1	
専門科目	(臨床看護学領域)									
	891100	ウイメンズヘルス特論Ⅰ	00	春2	2	和泉美枝	水2	必修	1	
	891200	ウイメンズヘルス特論Ⅱ	00	秋2	2	眞鍋えみ子, 細井創	金2	必修	1	
	(基盤科目)									
	891800	助産学概論	00	春2	2	眞鍋えみ子, 鈴木絵里, 高田昌代	火2	必修	1	
	891900	リプロダクティブヘルス論	00	春2	2	宮川幸代, 谷直之, 早乙女智子, 岩佐弘一, 中村嘉孝	木2	必修	1	
	892000	ペアレンティング援助論	00	春2	2	和泉美枝, 川崎友絵, 中川淑子	木1	必修	1	
	892100	妊娠期助産診断技術学	00	春2	2	和泉美枝, 小切間美保, 岩佐弘一	火4	必修	1	
	892200	分娩期助産診断技術学	00	秋2	2	宮川幸代, 岩佐弘一	木2	必修	1	
	892300	産褥・新生児期助産診断技術学	00	春2	2	和泉美枝, 桑原 勲	月2	必修	1	
	892400	助産診断技術学演習	00	通2	2	和泉美枝, 宮川幸代, 長谷川昇, 越山茂代, 大内裕美, 谷口利絵, 渡邊裕也	火3	必修	1	
	892500	地域母子保健論	00	秋2	2	三橋美和, 高城智圭, 川崎友絵, 江守晃子, 藤原朋子, 緒方あかね, 谷口貴子, 看護未定6	木1	必修	1	
	892600	助産マネジメント論	00	秋2	2	眞鍋えみ子, 竹内芳子, 谷口利絵, 看護未定3	水1	必修	1	
	892700	助産学実習Ⅰ	00	春6	2	和泉美枝, 神原祐美, 看護未定2	集中	必修	1	
	892800	助産学実習Ⅱ	00	秋21	7	宮川幸代, 神原祐美, 看護未定2	集中	必修	1	
	892900	助産学実習Ⅲ	00	通3	2	和泉美枝, 神原祐美, 看護未定2	集中	必修	2	
	893400	リプロダクティブヘルス演習	00	春2	1	眞鍋えみ子, 和泉美枝, 中川淑子, 山中 聡	金4	必修	2	
	893500	高次助産診断技術学演習	00	通1	1	宮川幸代, 澤田守男, 山畑佳篤, 吉田英美	金3	必修	2	
	(発展科目)									
	893000	赤ちゃん学特論	00	秋2	2	加藤正晴	火2	必修	1	隔年開講
	893100	国際母子保健論	00	秋1	1	橋本秀実, 嶋澤恭子	木5	必修	1	隔年開講
	893600	助産学実習Ⅳ	00	春6	2	和泉美枝, 神原祐美, 看護未定2	集中	必修	2	
	893700	助産学実習Ⅴ	00	秋6	2	和泉美枝, 看護未定2	集中	必修	2	
	893200	統合ヘルスケア論	00	秋2	2	眞鍋えみ子, 長谷川昇, 大本千佳, 田口玲奈, カーティー倫子	水3	必修	1	
	893300	遺伝カウンセリング論	00	秋1	1	眞鍋えみ子, 勝元さえこ	金1	必修	1	隔年開講
特別研究	8939XX	課題研究	01	通4	4	眞鍋えみ子	木4	必修	2	
			02	通4	4	和泉美枝		必修	2	

*修了要件

本課程に2年以上在学し、所定の授業科目について、必修科目57単位を含む61単位以上（共通科目12単位以上、看護学研究科目4単位以上、助産学実践科目41単位（基盤科目31単位、発展科目10単位）、特別研究「課題研究」4単位）を修得するとともに、必要な研究指導を受けた上で、課題研究論文の審査及び最終試験に合格すること。

なお、助産師国家試験の受験に必要な保健師助産師看護師学校養成所指定規則第3条第3号に規定される必要科目31単位が含まれている。

博士課程（後期）

科目区分	授業コード	科目名	クラス	期間	単位	担当者	時間割	履修方法	履修可能最低年次	備考
共通科目	894000	看護教育特講	00	春1	1	岡山寧子, 中川典子	金 3	必修	1	
	894100	看護研究特講	00	春1	1	當目雅代, 杉原百合子	土3・4	必修	1	
	894200	看護研究方法特講Ⅰ（質的研究）	00	秋1	1	小松光代, 杉原百合子	金 2	選択必修	1	
	894300	看護研究方法特講Ⅱ（量的研究）	00	秋1	1	眞鍋えみ子, 三橋美和, 長谷川昇	金 3	1単位以上	1	
専門科目	（臨床看護学領域）									
	894400	成人看護学特講	00	春1	1	當目雅代, 光木幸子	土1・2	選択必修 2単位以上	1	
	894500	ウイメンズヘルス特講	00	春1	1	眞鍋えみ子, 和泉美枝	金 4		1	
	（広域看護学領域）									
	894600	高齢者・在宅看護学特講	00	春1	1	小松光代, 長谷川昇, 岡山寧子	金 5		1	
特別研究	894700	公衆衛生看護学特講	00	春1	1	三橋美和, 高城智圭, 橋本秀実	金 2		1	
	8948XX	看護学特別研究Ⅰ	XX	通1	2	下記※参照		必修	1	
	8949XX	看護学特別研究Ⅱ	XX	通1	2	下記※参照		必修	2	
	8950XX	看護学特別研究Ⅲ	XX	通1	2	下記※参照		必修	3	

※修了要件

本課程に3年以上在学し、共通科目から3単位以上（必修2単位、選択必修1単位以上）、専門科目から2単位以上、特別研究から6単位（必修）、合計11単位以上を修得するとともに、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験（口頭試問）に合格すること。

※「看護学特別研究Ⅰ」、「看護学特別研究Ⅱ」、「看護学特別研究Ⅲ」の授業コードについて

授業コードの下2ケタが“XX”と表示されている科目について、登録の際には、この“XX”を「担当者コード一覧」を参照の上、2ケタの数字に置き換えること。

（例）「看護学特別研究Ⅰ」を、當目 雅代 先生で履修する場合

「看護学特別研究Ⅰ」の授業コード 8 9 4 8 XX

↓

當目 雅代先生の担当者コード 0 1

↓

登録カードに記載する授業コード 8 9 4 8 0 1

「看護学特別研究Ⅰ～Ⅲ」担当者コード

コード	担当者
01	當目 雅代
02	小松 光代
03	眞鍋 えみ子
04	岡山 寧子
05	長谷川 昇
06	光木 幸子
07	三橋 美和
08	南 妙子
09	杉原 百合子
10	高城 智圭
11	和泉 美枝

カリキュラム

授業コード		科目名	クラス	期間	単位	担当者	時間割	履修方法	年次	備考
A類	(くらしの文化分野)									
	698660	くらしの文化特殊演習 A	60	春2	2	小崎 眞	木 3	選択必修	1	
	698760	くらしの文化特殊演習 B	60	春2	2	平光睦子	金 2	選択必修	1	
	698860	くらしの文化特殊演習 C	60	春2	2	麻生美希	月 4	選択必修	1	
	698960	くらしの文化特殊演習 D	60	春2	2	塚田由佳里	木 3	選択必修	1	
	699060	くらしの文化特殊演習 E	60	春2	2	村井陽平	金 3	選択必修	1	
		くらしの文化発展演習		秋2	2	(本年度欠講)		選択必修	1	
	(くらしの仕組分野)									
	69C060	くらしの仕組特殊演習 A	60	春2	2	土井幸輝	火 2	選択必修	1	
	69C160	くらしの仕組特殊演習 B	60	春2	2	奥田紫乃	木 2	選択必修	1	
	69C260	くらしの仕組特殊演習 C	60	春2	2	藤本純子	月 2	選択必修	1	
	69C360	くらしの仕組特殊演習 D	60	春2	2	齋藤朱未	火 4	選択必修	1	
69C5xx	くらしの仕組発展演習		秋2	2	下記※参照	火 4	選択必修	1		
B類	(くらしの文化分野)									
	69C660	居住空間特論	60	秋2	2	塚田由佳里	金 3	選択必修	1	
	69C760	服飾文化特論	60	秋2	2	平光睦子	火 3	選択必修	1	
	697960	生活と倫理特論	60	春2	2	小崎 眞	木 2	選択必修	1	
	69C860	都市計画特論	60	秋2	2	麻生美希	木 2	選択必修	1	
	69C960	プロダクトデザイン特論	60	秋2	2	村井陽平	金 2	選択必修	1	
		生活デザインと文化		半2	2	(本年度欠講)		選択必修	1	隔年開講
	(くらしの仕組分野)									
	69D160	居住環境特論	60	秋2	2	奥田紫乃	木 3	選択必修	1	
	69D260	被服造形特論	60	秋2	2	藤本純子	月 3	選択必修	1	
	698560	ユニバーサルデザイン特論	60	秋2	2	土井幸輝	木 4	選択必修	1	
	69D360	地域計画特論	60	秋2	2	齋藤朱未	月 2	選択必修	1	
	697060	食と栄養学特論	60	秋2	2	西村公雄	火 2	選択必修	1	
	69D460	生活デザインと仕組	60	春2	2	齋藤朱未, 新保奈穂美, 杉山正晃, 田島等, 山口秀樹	金 6	選択必修	1	隔年開講
	69D560	生活デザイン特別講義	60	秋2	2	奥田紫乃, 比嘉明子, 岩井彌, 永田賢司, 坂口蔵斗, 清水洋平	金 6	必修	1	
69D660	生活デザイン特別研究Ⅰ		春2	2	専任教員		必修	2		
69D760	生活デザイン特別研究Ⅱ		秋2	2	専任教員		必修	2		

コード	担当者
61	土井 幸輝
62	奥田 紫乃
63	藤本 純子
64	齊藤 朱未

生活科学研究科 食物栄養科学専攻 授業科目表

修士課程 食物栄養科学コース（2013年度以降入学生に適用）

領域	授業コード	科目名	クラス	期間	単位	担当者	時間割	履修方法	履修可能 最低年次	備考
食品学	廃止	分子食品生化学		秋2	2					
	廃止	食品生理活性物質分析論		秋2	2					
	廃止	有用生物生態制御論			2					
	694360	環境物質制御論	60	春2	2	吉田 香	月2	選択	1	
	692460	有用生物開発論	60	春2	2	川崎祐子	金2	選択	1	
調理学	699860	食品機能論	60	秋2	2	杉浦 実	火2	選択	1	
	69A260	食品生体応答論	60	春2	2	森 紀之	火2	選択	1	
	692860	食品ハイドロコロイド論	60	秋2	2	山本 寿	金2	選択	1	
	694460	食品プロセス論	60	秋2	2	西村公雄	金3	選択	1	
	694560	食嗜好論	60	春2	2	真部真里子	金3	選択	1	
栄養学	694660	給食経営管理論	60	春2	2	神田知子	火4	選択	1	
	694760	調理機能論	60	秋2	2	村上 恵	金2	選択	1	
	694860	臨床栄養制御論	60	春2	2	奥村仙示	木3	選択	1	
	廃止	食物アレルギー論		春2	2					
	695060	栄養疫学	60	春2	2	今井具子	木2	選択	1	
栄養学		生体物質作用論		春2	2	(本年度欠講)		選択	1	
	699260	食育論	60	秋2	2	小切間美保	金3	選択	1	
	廃止	栄養生理学		春2	2					
	699460	分子栄養学	60	秋2	2	倉橋優子	火3	選択	1	
	69A160	健康栄養科学	60	春2	2	田中雅彰	火2	選択	1	
栄養学	69A360	テラーメイド栄養教育論	60	春2	2	片井加奈子	金2	選択	1	
	69A460	栄養吸収代謝論	60	春2	2	鈴木拓史	金4	選択	1	
	691260	食物学特別講義	60	春2	2	小川剛伸, ロシニョーリ正代		必修	1・2	
	691360	食物学特別研究	60	通年	10	専任教員		必修	2	
	6995XX	食物栄養科学演習Ⅰ	XX	秋2	2	下記※参照		必修	1	
	699660	食物栄養科学演習Ⅱ	60	春2	2	専任教員		必修	2	

* 修了要件：必修科目16単位及び選択科目14単位以上、合計30単位以上修得しなければならない。

また、実践栄養管理学コースの科目から選択科目として8単位まで修了に必要な単位に算入することができる。

ただし、「医療実地研修」「保険・福祉実地研修」「実践栄養管理学特別研究」は履修できない。

* 廃止された科目の単位を修得済の場合、単位は有効。

※新入生オリエンテーション期間にコンプライアンス教育・研究倫理教育を実施する。

※「食物栄養科学演習」の授業コードについて

授業コードの下2ケタが“XX”と表示されている科目について、登録の際には、この“XX”を「担当者コード一覧」を参照の上、2ケタの数字に置き換えること。

(例) 「食物栄養科学演習」を、小切間 美保 先生で履修する場合

「食物栄養科学演習」の授業コード 6995XX

↓

小切間 美保 先生の担当者コード 61

↓

登録カードに記載する授業コード 699561

「食物栄養科学演習」担当者コード

コード	担当者
61	小切間 美保
62	奥村 仙示

生活科学研究科 食物栄養科学専攻 授業科目表

修士課程 実践栄養管理学コース（2023年度以降入学生に適用）

【実地研修を実施する学生（管理栄養士として職場を有しない者）】

授業コード	科目名	開講テーマ	クラス	期間	単位	担当者	時間割	履修方法	履修可能 最低年次	備考
69A560	実践栄養学特論 A	実践栄養学研究の基礎	60	春2	2	高嶋直敬, 赤松利恵, 由田克志, 松本麻衣, 小切間美保	月 6	必修	1	夜間開講
69A660	実践栄養学特論 B	実践栄養学研究の実際	60	秋2	2	安達美佐, 山中祥子, 近藤慶子, 森口次郎, 今井具子	月 6	必修	1	夜間開講
69A960	臨床栄養学特論 A	病態栄養学 A	60	春2	2	(本年度欠講)	水 6	必修	1	夜間開講
	臨床栄養学特論 B	病態栄養学 B		秋2	2	(本年度欠講)		必修	1	夜間開講
	臨床栄養学特論 C	病態栄養学 C		春2	2	高木洋子, 土居健太郎, 今井佐恵子, 榎田出, 奥村仙示, 田中雅彰		選択	1	夜間開講
69B060	臨床栄養学特論 D	病態栄養学 D	60	秋2	2	米谷 俊, 諸藤 圭, 佐々木雅也, 伊藤明彦, 澤田守男, 西本裕紀子, 田中雅彰, 小切間美保	木 6	選択	1	夜間開講
69B160	栄養管理学特論	栄養管理学の応用	60	春2	2	中西直子, 前野雅美, 足立恵子, 野秋恵理子, 大塚 礼, 渡邊英美, 栗原美香, 神田知子, 田中雅彰	土 3	必修	1	
69B260	実践栄養管理学研究	実践栄養管理学研究の基礎	60	通年	4	専任教員	火 6	必修	1	夜間開講
69B360	国際実践栄養学特論	実践栄養学の海外事情	60	春2	2	田中雅彰, 小切間美保, 甲斐永里, 森渚, ロシニョーリ正代		選択	1	
	保健統計学特論			春2	2	(本年度欠講)		選択	1	
69B460	医療実地研修	医療現場での研修		通年	4	(本年度欠講)		選必	1	2科目のい ずれかを履修
69B560	保健・福祉実地研修	高齢者施設, 学校現場等での研修		通年	4	(本年度欠講)		選必	1	
69B660	実践栄養管理学特別研究	実践栄養管理学研究の発展	60	通年	10	専任教員		必修	2	

* 修了要件：24単位を必修，4単位を選択必修とし，選択科目2単位以上，合計30単位以上修得しなければならない。

実地研修では，本学指定の施設における1年間の実地研修を実施する。ただし，実地研修の実施は，管理栄養士免許取得者に限る。
また，食物栄養科学コースの科目を選択科目として修了に必要な単位に算入することができる。ただし，「食物学特別研究」「食物栄養科学演習Ⅰ」「食物栄養科学演習Ⅱ」は履修できない。

※新入生オリエンテーション期間にコンプライアンス教育・研究倫理教育を実施する。

【実地研修を実施しない学生（管理栄養士として職場を有する者）】

授業コード	科目名	開講テーマ	クラス	期間	単位	担当者	時間割	履修方法	履修可能 最低年次	備考
69A560	実践栄養学特論 A	実践栄養学研究の基礎	60	春2	2	高嶋直敬, 赤松利恵, 由田克志, 松本麻衣, 小切間美保	月 6	必修	1	夜間開講
69A660	実践栄養学特論 B	実践栄養学研究の実際	60	秋2	2	安達美佐, 山中祥子, 近藤慶子, 森口次郎, 今井具子	月 6	必修	1	夜間開講
69A960	臨床栄養学特論 A	病態栄養学 A	60	春2	2	(本年度欠講)	水 6	必修	1	夜間開講
	臨床栄養学特論 B	病態栄養学 B		秋2	2	(本年度欠講)		必修	1	夜間開講
	臨床栄養学特論 C	病態栄養学 C		春2	2	高木洋子, 土居健太郎, 今井佐恵子, 榎田出, 奥村仙示, 田中雅彰		選択	1	夜間開講
69B060	臨床栄養学特論 D	病態栄養学 D	60	秋2	2	米谷 俊, 諸藤 圭, 佐々木雅也, 伊藤明彦, 澤田守男, 西本裕紀子, 田中雅彰, 小切間美保	木 6	選択	1	夜間開講
69B160	栄養管理学特論	栄養管理学の応用	60	春2	2	中西直子, 前野雅美, 足立恵子, 野秋恵理子, 大塚 礼, 渡邊英美, 栗原美香, 神田知子, 田中雅彰	土 3	選択	1	
69B260	実践栄養管理学研究	実践栄養管理学研究の基礎	60	通年	4	専任教員	火 6	必修	1	夜間開講
69B360	国際実践栄養学特論	実践栄養学の海外事情	60	春2	2	田中雅彰, 小切間美保, 甲斐永里, 森渚, ロシニョーリ正代		選択	1	
	保健統計学特論			春2	2	(本年度欠講)		選択	1	
69B660	実践栄養管理学特別研究	実践栄養管理学研究の発展	60	通年	10	専任教員		必修	2	

* 修了要件：22単位を必修とし，選択科目8単位以上，合計30単位以上修得しなければならない。

また，食物栄養科学コースの科目を選択科目として修了に必要な単位に算入することができる。ただし，「食物学特別研究」「食物栄養科学演習Ⅰ」「食物栄養科学演習Ⅱ」は履修できない。

※新入生オリエンテーション期間にコンプライアンス教育・研究倫理教育を実施する。

●各研究科・専攻 問い合わせ先

文学研究科	英語英文学専攻	TEL 075-251-4103
	日本語日本文化専攻	TEL 075-251-4106
	情報文化専攻	TEL 0774-65-8635
国際社会システム研究科	国際社会システム専攻	TEL 0774-65-8543
薬学研究科	医療薬学専攻	TEL 0774-65-8477
看護学研究科	看護学専攻	TEL 0774-65-8818
生活科学研究科	生活デザイン専攻	TEL 075-251-4211
	食物栄養科学専攻	

